「四川省涼山州金沙江流域生態環境保全総合開発モデルプロジェクト」

終了時評価調査報告書

2013 年 9 月

独立行政法人　国際協力機構

中華人民共和国事務所

中国事
JR
13-01

目　次

１．背景.....1
２．調査の目的.....1
３．調査方法、日程.....2
3-1 調査方法 2
3-2 団員構成、及び調査日程 3
４．プロジェクトの現状.....4
4-1 投入実績.....4
4-2 プロジェクト目標および成果の達成状況.....4
５．評価５項目による評価.....15
5-1 妥当性.....4
5-2 有効性 6
5-3 効率性 15
5-4 インパクト 16
5-5 自立発展性 17
６．结论 18
７．建议 18

附件
別添１プロジェクト投入実績.....22
別添２PDM.....40

１．背景

中華人民共和国（以下「中国」という）四川省凉山州（位置：東経 100°15′～103°53′北緯 26°03′～29°27′／面積：60114 ㎢／総人口：424.32 万人）は長江の上流域に位置し、中国で最大の彝族（以下「イ族」という）居住地で貧困少数民族地区のひとつであり、17 市県のうち 11 県が国家指定の重点貧困県である。食料は馬鈴薯や燕麦等の穀物の生産を主としているが、頻発する自然災害の影響で食糧不足も起きている。

他方、長江上流に位置する金沙江流域は、土砂流出が大きな問題となっている。これは同流域の地理的特徴（地表の起伏が大きく山々が険峻で、岩層は破砕しやすいため、集中降雨によって土壌浸食・流出が発生しやすい）とかつての大躍進政策によって山林のほとんどが乱伐され森林が消滅して荒廃裸地となっていることが一因となっている。

1998 年に発生した長江大洪水を契機として、同年 11 月の江沢民国家主席（当時）訪日時の日中首脳会談において、この土砂流出を防止するための植林分野の協力促進について合意がなされ、2000 年 5 月に「中国四川省安寧河流域造林計画調査」、2000 年 7 月から 2007 年 10 月に「四川省森林造成モデル計画プロジェクト」が並行して開始され、その結果、森林造成技術については中国側へ移転され、当該地域の森林保全活動において一部その成果が出始めている。

しかし、土砂流出により農地をなくした農民が耕地確保のため更に傾斜の激しい山肌を乱墾し、粗放な耕作が更に土砂流出を引き起こすという悪循環により土砂流出も依然として続いている。中国政府は、90 年代から退耕環林（農地から森林への転換）や移民扶貧（貧困地区からの移住）事業によって過開墾地からの住民移転を進めているが、地域によってはあまり効果が上がっていない。

このような背景から、中国政府は 2007 年に終了した「四川省森林造成モデル計画プロジェクト」の成果を活用して四川省安寧河流域全体に森林造成事業を拡大して行くことと、併せて土壌流出による耕地減少を抑えて農民の生計手段を保障し、農民による過開墾や森林乱伐を抑えて森林の回復を図るべく、耕地の基盤整備、生態圏の回復、農民に対する実用的な農業技術の研修等を内容とした総合農村貧困対策に係る技術協力プロジェクトを我が国に対して要請した。

この要請に基づき、2008 年に 6 月に事前評価調査団を派遣し、中国四川省涼山州関係者との協議及び現地調査を通じて日本側が協力可能な基本計画（案）を取りまとめ、同州側との間で合意した。日中双方は 2009 年 3 月 26 日に本プロジェクトの RD にサインし、6 月から専門家を派遣し活動を開始した。

プロジェクトでは活動計画に沿って農村資源調査等を行い、村民大会を開き、各村での実際の活動内容を定め、農業、林業、畜産、生活環境改善等の各面でパイロットプロジェクトを実施し、ある程度の成果を出している。

プロジェクトの実施の中で、限られた予算を効率的、効果的に活用し、プロジェクトの目標を達成するため、3 年次からプロジェクトの対象地域を美姑県、寧南県 2 県に絞込み、集中的に専門家を投入し、元の会東県、布拖県、金陽県でのプロジェクト活動を取消すこととした。中国側の要望により、訪日研修に関しては 5 件を対象とすることにし、ＰＤＭでは対象を 5 県のままにした。

プロジェクト活動の開始から５年目に入り終了を迎えた段階で、プロジェクトの成果を確認し、プロジェクト目標の達成状況や効率性、妥当性などを評価することにより、プロジェクト終了時までに既定の目標を達成し、終了後に上位目標を達成できるため、終了時評価を実施する。

２．調査の目的

本調査は、「四川省涼山州金沙江流域生態環境保全総合開発モデルプロジェクト」の終了時段階で本プロジェクトの活動状況や運営状況について調査し、プロジェクト目標の達成状況を把握するとともに収集したデータを分析し、プロジェクト実績の貢献・阻害要因を抽出した上で効率性や妥当性など評価５項目について評価を行い、合同評価調査報告書を作成するとともに、同評価の結果から先方政府関連機関との間で 2014 年 3 月のプロジェクトの終了に向けた活動（PDM を含む）について提言をすることを目的とする。さらに、同提言は合同調整委員会において日中間で協議し、M/M の署名・交換を行う。

３．調査方法、日程

3－１調査方法

（１）評価はＰＣＭ手法に基づき、以下の流れで、評価５項目（有効性（目標達成度）、インパクト、効率性、妥当性、自立発展性）について評価を行う。

①プロジェクトの実績の確認

2013 年 4 月に改定された PDM に基づいて、プロジェクトの投入、活動、成果を確認し、併せて、各活動の実施に当たっての問題点と対処案を検討する。

②評価

確認された実績に関して、以下の５項目の観点から評価・分析を行う。

妥　当　性: プロジェクトの目指している効果（プロジェクト目標や上位目標）の援助プロジェクトとしての正当性・必要性を問う視点。

有　効　性: プロジェクトの実施により、目標がどれだけ達成され、本当に受益者もしくは社会への便益がもたらされているのか（あるいはもたらされるのか）を問う視点。

効　率　性: 主にプロジェクトのコストおよび効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているか（あるいはされるか）を問う視点。

インパクト: プロジェクト実施によりもたらされる、より長期的、間接的効果や波及効果、特に予期していなかった正・負の効果・影響を見る視点。

自立発展性: 援助が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続しているか（あるいは持続の見込みはあるか）を問う視点。

結　　論: ５項目における評価の結果を総合的に判断する。

③教訓・提言

（２）日中双方の評価調査団を結成し、合同評価調査を実施する。評価者は JICA が組織する終了時評価調査団（JICA、評価コンサルタント等により構成）―日本側、涼山州人民政府及び涼山州科技局のプロジェクト責任者―中国側、とする。

3－2 団員構成、及び調査日程

(1) 団員構成

（日本側）　　※現地で通訳を傭上する

	氏名	担当分野	所属・役職
1	魚屋　将	総　括	JICA 中華人民共和国事務所　次長
2	十津川　淳	評価分析	佐野総合企画株式会社
3	林　哲浩	協力計画	JICA 中国事務所　所員
4	徐　潔	通訳	北京大来創傑コンサル有限公司

（中国側）

	氏名	担当分野	所属・役職
1	周　大海	総括	涼山州科技局　局長
2	王　会蓮	副総括	涼山州科技局　副局長
3	譚　平	協力計画	涼山州科技局　農村科　科長
4	馬　鋼		涼山州科技局　職員

(2) 調査日程

2013年9月10日（火）～9月24日（火）

日順	月日	曜日	時間	調査行程		宿泊
1	9 月 10 日	火	全日	成田⇒北京　JICA 中国事務所打ち合わせ		北京
2	9 月 11 日	水	全日	北京－成都－西昌		西昌
3	9 月 12 日	木	全日	涼山州政府関連部門関係者のヒアリング		西昌
4	9 月 13 日	金	全日	西昌－寧南県　県関係者のヒアリング		寧南
5	9 月 14 日	土	全日	寧南県モデル村での調査		寧南
6	9 月 15 日	日	全日	寧南－西昌	林団員西昌入り	西昌
7	9 月 16 日	月	全日	西昌－美姑県　　県関係者のヒアリング		美姑
8	9 月 17 日	火	全日	美姑県モデル村での調査		美姑
9	9 月 18 日	水	全日	美姑－西昌　　団内打合せ		西昌
10	9 月 19 日	木	全日	合同評価報告書整理		西昌
11	9 月 20 日	金	全日	合同評価報告書整理	魚屋団長西昌入り	西昌
12	9 月 21 日	土	全日	団内打ち合わせ、合同評価報告書整理		西昌
13	9 月 22 日	日	全日	日中評価調査団による合同評価報告書についての協議		西昌

14	9 月 23 日	月	全日	日中評価調査団による合同評価報告書についての協議 西昌－成都－北京	北京
15	9 月 24 日	火	全日	北京－東京	

4. プロジェクトの現状

4-1 投入実績

添付資料 1 のとおりである。

4-2 プロジェクト目標および成果の達成状況

＊ 本終了時評価においては、2013 年 4 月 15 日に承認された PDM に基づいて達成状況を検証した。

4-2-1 成果の達成度

成果 1: 協力対象県（5 県（5 村））の関係者（州、県、郷鎮及び村レベル機関行政スタッフ及び農民）が参加型で農村開発を行う能力が向上する

（指標）

1-1 定例会議の開催（実施回数32回以上、参加人数500人以上）と決定事項の内容

1-2 研修（実施回数40回以上、参加人数700人以上）及び内容

成果1については「概ね達成した」と判断できる。

これまでの活動を通して、知識的側面における「参加型で農村開発を行う能力」は研修参加者などを中心に向上したと判断できる。また、県職員や郷、村レベルの幹部も村落での活動～日常的な技術指導や隔月モニタリング・評価ワークショップ等への参加を通して、実践的な能力も概ね習得したと言える。ただし、県職員や郷関係者の参加度合いは個々人で差異があったため、関係者全員が一様に能力向上～特に実践的な側面での能力向上を完全に果たしたとまでは言えない。そのため、「概ね」達成とした。

指標の観点における達成状況は以下のとおりである。

指標項目	達成状況
1-1 定例会議の開催（実施回数32回以上、参加人数500人以上）と決定事項の内容	● 州レベル（省代表も参加）のJCC（毎年１回）の他、パイロット現場村でのモニタリング・ワークショップを２ヶ月に１度開催（実施回数は総計28回、参加人数は累計で357人）。 ● 各年次の終了直前に現場村にてパイロット活動の住民参加型年次評価を実施（総計6回、参加人数162人）。
1-2 研修（実施回数40回以上、参加人数700人以上）及び内容	● 参加型開発手法研修：①州科技局、県科技局、および県レベル各部局の職員に対して1年次、4年次と2回にわたり座学研修を実施した；②実践研修として農村資源調査インタビューや各種参加型ツールについて研修を実施した。

	● 参加型開発研修は計4回、出席人数108人。 ● スタディツアー：パイロット村の農民が郷内および他県の先進地区への見学を実施した。 ● スタディツアーは計3回、79人が参加。 ● 5年次はスタディツアーが2回計画され30人の出席を予定。PDMでの指標（40回、700人）を達成見込み。

成果 2: 生態環境と調和した農業の持続性向上と農民生活の改善を図る事業モデルが確立する

（指標）

2-1　実施された資源調査（数、内容）

2-2　策定された農村振興に係る活動計画（数、内容）

2-3　パイロット活動の成果（活動項目数、参加者数）

2-4　実施されたモニタリング及び評価の内容

成果2はプロジェクト完了時までに達成する見込みが高い。

本プロジェクトでは寧南県および美姑県において、住民参加型アプローチを採用したパイロット活動を展開してきた。これらの経験をベースとして、成果2が示す「農業の持続性向上と農民生活の改善を図る」事業モデルの原型が既に形作られており、プロジェクト成果報告書等において説明が為されている。

ただし、これまで事業モデルの詳細・定義について、報告書でこそ一定の説明がなされているものの、日本側専門家チームと中国側の両者で十分といえるまでの議論を行なってはいない。今般の終了時評価においても、未だなお中国側からパイロット活動に疑義を示す点も一部あることから、プロジェクト完了時点までに改めて事業モデルの内容について両者間で協議、合意する必要がある。このプロセスを以て、本成果は最終的に達成されたものと判断するべきであろう。

なお、本プロジェクトが採用した参加型アプローチは、ベースライン調査、農村資源調査、農民集会、農民自らによる計画策定・評価・モニタリング等を実施しており、いわば参加型アプローチの基本的な枠組みを満遍なく網羅したものとなっている。一方で、中国側はこれらアプローチの有用性を認めながらも、参加型アプローチといえども中国の実情に即したものにする必要があるとの考え方を示している。特に、金額的な投入規模を事前に明示することや、そもそもの投入量を増加させること、モデル農家を足掛かりとして技術を普及する方法が有効であることなどを主張する声が多い。

そのため、今後はプロジェクト終了後の持続性を見据えながら、本プロジェクトの経験と中国側が考える中国流の参加型アプローチとの調整を経て、持続性の高い「事業モデル」を策定するべきである。

なお、日本側専門家チームが目指した住民参加型のレベルは、キャッチフレーズとして使用した「考える農民の育成」であった。つまり、一般に住民参加型で考えられる参加形態の種類において、最も高いレベルの参加型を目指していたと言える。一方、中国側が述べる参加型は「動員型」であり、参加形態の観点からは初歩的なレベルにある参加型と言えるであろう[1]。

他方、これまでの二つのパイロット村における活動実績は下表のとおりである。表が示すとおり、1年次から多様な活動を展開してきたが、参加住民の反応や継続意思などに即しながら、3年次ごろより活動項目を集約させ始めた。これら活動のうち、住民の受容性が高く、かつ村落内での広がり、視認できる経済的・社会的効果が生まれたものとしては、寧南県の経済林造成、種豚の導入活動などが挙げられる。また、美姑県では美姑ヤギ、ジャガイモ生産（優良品種導入）、用材林造成、人畜分離、改良かまどなどの活動が挙げられる。

（1） 寧南県

分野	活動	実施年度	参加農家数	活動内容
1) 農業	ジャガイモ優良品種導入	1年次（調査のみ）	3戸	４品種の種イモを配布、栽培指導
		2年次		収穫、テンプン含有量調査、食味調査
		3年次（技術指導のみ）	3戸	農家自身で栽培継続（日常管理、収穫指導）
		4年次（技術指導のみ）	3戸	農家自身で栽培継続（日常管理、収穫指導）
		5年次（技術指導のみ）	3戸	農家自身で栽培継続（日常管理、収穫指導）
	販売用野菜栽培	1年次（技術指導のみ）	5戸	展示用ビニールハウス 1 棟の設置と 5 戸への資材配布、技術指導
		2年次		モデル農家自身でのビニールハウス 5 棟設置の技術指導、トマト・トウガラシの栽培指導
		3年次（技術指導のみ）		専門家より技術指導のみ

[1] 住民参加型の形態には様々な議論があるが、例えば Canadian Council for International Cooperation, Two Halves Makes a Whole-Balancing Gender Relations in Development (1991)では、参加型を 4 レベルに分け、第一段階：便益享受、第二段階：要請受諾（動員型）、第三段階：能動型、第四段階：問題解決型としている。

分野	活動	実施年度	参加農家数	活動内容
		4 年次（技術指導のみ）		農家自身で育苗、栽培を行い、専門家からは技術指導のみ
		5 年次（技術指導のみ）	4 戸	農家要望に応じての技術指導のみ継続中
2）畜産	畜舎改良	1 年次（技術指導のみ）	19 戸	改良点の指導
		2 年次		資材(ブロック、スレート)配布、改良作業指導
		3 年次		モニタリング
	乳製品デモ	1 年次	20 人	ヨーグルト、チーズの作成展示会
	サイレージのデモ	1 年次	15 人	冬期の餌確保のため地面に穴を彫りトウモロコシの葉を入れ密封、発酵する技術の展示会
	種豚導入	3 年次	各組	12 頭の種豚（ヨークシャー種、デュロック種 6 頭づつ）を導入して種付し品種改良を推進。
		4 年次	40 戸	50 頭の雌豚（ランドレース、大ヨークシャー、デュ―ロック、F1）を導入し品種改良。
		5 年次（実施中）	5 戸（種豚農家）23 戸（雌豚農家）	改良効果が良く、品種改良継続中 品種改良及び小豚のリボルビング実施中
3）林業・土地利用	編柵工の設置と展示	1 年次	不特定多数	条件調査のみ
		2 年次		2 箇所で設置、効果展示
	経済林造成	1 年次	18 戸	植林実施設計、8 戸のクルミ植林
		2 年次	22 戸	クルミ、青山椒の植林
		3 年次	183 戸＋4 戸	クルミ 179 戸、青山椒 142 戸の植林（完了）、 4 戸における育苗（クルミ、青山椒）の技術支援（11 月より）
		4 年次	125 戸	クルミ 125 戸（済）
		5 年次（実施中）	64 戸	クルミ 64 戸（済）、日常管理実施中
4）生活改	衛生教育ビデオ	1 年次	48 人	1 本の映画を撮影（「正しい病気の知識

分野	活動	実施年度	参加農家数	活動内容
善				について」)、上映会実施
	太陽熱温水器	1 年次（調査のみ）	21 戸	（家屋の条件調査のみ）
		2 年次	4 戸	モデル農家へ試験的に 4 戸設置

（2） 美姑県

分野	活動	実施年度	参加農家数	活動内容
1) 農業	ジャガイモ優良品種導入	1 年次（調査のみ）	21 戸	４品種の種イモを配布、栽培指導
		2 年次		収穫、テンプン含有量調査、食味調査、品種決定
		3 年次	60 戸	決定した品種（涼芋 17 号）をリボルビング方式で 100kg ずつ配布、8/31 に１次農家全戸が返済完了し２次農家に配布済
		4 年次	60 戸	参加農家の返済の管理、栽培指導、リボルビング継続（3 次農家返済）
		5 年次（実施中）	60 戸	3 次農家栽培開始、日常管理指導。全村の参加農家をカバーした為現在ジャガイモ協会への返済実施中
	夏季野菜ビニールハウス栽培	1 年次	5 戸	展示用ビニールハウス 1 棟の設置と 5 戸への資材配布、技術指導
		2 年次（技術指導のみ）		トマト、トウガラシの技術指導（栽培指導、ボカシ肥料作成展示）、トウガラシに集中する方針決定
		3 年次（技術指導のみ）		技術指導のみ、農家自身でトウガラシ販売開始
		4 年次（技術指導のみ	4 戸	農家自身で育苗、栽培、専門家より技術指導のみ
		5 年次（継続中）	3 戸	農家要望による技術指導の継続中
	栄養改善のための野菜栽培	1 年次	26 戸	技術指導（栽培研修）のみ
		2 年次		上記のビニールハウスを利用したキャベツ、白菜、ネギの栽培指導
		3 年次	全農家	農家自身で栽培、普及、販売開始（主にキャベツ）
	トウモロコシ郷土品種育成	1 年次（調査のみ）	17 人	技術指導（育種目標の選定）のみ

分野	活動	実施年度	参加農家数	活動内容
		2 年次		選定した品種の播種指導、優良個体の選定
		3 年次（技術指導のみ）		技術指導のみ、農家自身で収穫し、品種改良の展示会も開催。
		4 年次（技術指導のみ）	17 戸	技術指導のみ、農家自身で収穫し、品種改良の展示会も開催。
		5 年次（技術指導のみ）、（継続中）	17 戸	技術指導のみ、農家の間で品種改良継続中
2) 畜産	美姑ヤギのリボルビング方式による導入	1 年次	20 戸	メスヤギを 20 戸に 2 頭ずつ貸与、オスヤギ 4 頭を配布、種子配布（クローバー、黒麦草、トールフェスク）、メスヤギを配布する農家に畜舎の改良指導
		2 年次（技術指導のみ）		経過観察と飼育指導、畜舎改良指導
		3 年次	102 戸	メスヤギを 102 戸に 1 頭ずつ貸与、オスヤギ 7 頭を配布、アルファルファ種子を 12 戸に配布
		4 年次	102 戸 +22 戸	昨年導入した 102 頭のうち、既に 22 戸に小山羊を引き渡し。
		5 年次（実施中）	124 戸 +6 戸	5 年次に新たに 6 戸に小山羊を返済し、現在はまだリボルビングを継続中
	乳製品デモ	1 年次	25 人	ヨーグルト、チーズの作成展示会
	サイレージのデモ	1 年次	10 人	冬期の餌確保のため地面に穴を彫りトウモロコシの葉を入れ密封、発酵する技術の展示会
3) 林業・土地利用	水土流失試験の展示	1 年次	63 人	水土流失実験の展示と記録ビデオの上映会。
	経済林造成	1 年次	20 戸	植林実施設計
		2 年次	19 戸	クルミ、赤山椒の植林
		3 年次	192 戸	クルミ 79 戸（済）、赤山椒 87 戸（済）
		4 年次	192 戸	経済林の日常管理を実施した。
		5 年次（継続中）	192 戸	経済林の日常管理継続中。
	用材林造成	1 年次	21 戸	植栽実施設計
		2 年次	32 戸	カラマツ、ハンノキ、ポプラの植林
		3 年次	192 戸	カラマツ 192 戸（済）、ポプラ 9 戸（済）、ハンノキ 189 戸（済）、華山マツ（未定）

分野	活動	実施年度	参加農家数	活動内容
		4 年次	50 戸	カラマツ28戸(済)、ハンノキ34戸(済)。
		5 年次（継続中）	192 戸	用材林の日常管理を継続中。
4) 生活改善	改良カマド	1 年次（調査のみ）	18 戸	（意向・労働力調査のみ）
		2 年次		製作指導会を 2 回開催して、モデル農家 18 戸で製作。
		3 年次	103 戸	4 月(第 1 回) 33 戸に資材配布と製作指導、 7 月(第 2 回) 35 戸に配布して第 1 回農家が製作指導、 9 月(第 3 回) 35 戸に配布して第 2 回農家が製作指導、全参加農家がカマド製作を終了。
		4 年次	28 戸	参加農家のうちに 21 戸が改良カマドを製作。
		5 年次（実施中）	7 戸	昨年に未作成であった残りの 7 戸がまだ未作成。
	人畜分離	1 年次（調査のみ）	39 戸	資材配布と住居改造指導
		2 年次	35 戸	資材配布と住居改造指導
		3 年次	全農家	モニタリング
	衛生教育ビデオ	1 年次	63 人	1 本の映画を撮影（「妊婦の健康管理について)、上映会実施
		2 年次	46 人	1 本の映画を撮影（「正しい病気の診断について)、上映会実施
	太陽熱温水器	1 年次（調査のみ）	19 戸	（家屋の条件調査のみ）
		2 年次	5 戸	モデル農家のうち試験的に 5 戸に設置、効果測定

指標の観点における達成状況は以下のとおりである。

指標項目	達成状況
2-1　実施された資源調査（数、内容）	● 対象の5村落において5回の調査を実施した。調査は1年次に2県(2村)、2年次に3県(3村)で実施した。

	● 調査においては、PRAツールを用いて、対象村落の年表、地図、問題ランキング等を実施している。
2-2　策定された農村振興に係る活動計画（数、内容）	● 5県（5村）の資源調査にもとづき、農村振興活動計画を5村で作成した。 ● 計画は農業や林業、畜産分野に加えて、衛生、生活改善等、多様な分野にわたった。
2-3　パイロット活動の成果（活動項目数、参加者数）	● 上表のとおり
2-4　実施されたモニタリング及び評価の内容	● モニタリングについては隔月モニタリング・ワークショップおよび農民自身による参加型評価ワークショップを実施している。 ● 参加型評価ワークショップでは、農民自らがプロジェクトで得た便益、直面する課題、課題への解決法、今後の計画などを議論しており、プロジェクト活動を促進する有益な機会となった。 ● また恒常的なモニタリングとしては、プロジェクト専門家およびカウンターパートが対象地を訪問し、折々での課題や今後の計画等について、関係者間で情報を共有してきた。

成果 3：協力事業対象県内（5 県）へ事業モデルを紹介・普及する仕組を構築する

（指標）

3-1　　作成された普及計画の内容

3-2　　作成されたマニュアル及び教材の数、内容、その活用状況

3-3　　研修等（実施回数20回以上、参加人数500人以上）及び内容

成果3はプロジェクト完了時までに達成する見込みが高い。

プロジェクトでは4年次からプロジェクト活動の紹介を目的として、寧南県および美姑県でパイロット村の周辺村落の住民や郷・村幹部等を招き、ワークショップを多数実施してきた。終了時評価時点において、ワークショップは既に18回を数えており、紹介活動に関するプレゼンテーションの内容や方法、関係する行政機関の役割等については、一定の仕組みが構築されたといえる。

ただし、事業モデルの紹介・普及までの取り組みは、事業モデルの一部を構成するものと考えられるため、上記の成果2で指摘したとおり、事業モデルそのものの日中間のコンセンサスを経ることが必要である。そのため、終了時評価としては、「プロジェクト完了時点までに達成する見込みが高い」と表現した。なお、プロジェクト終了後を見据えた紹介普及実施体制や必要なプレゼンテーション内容等は、既に第5年次プロジェ

クト成果普及計画書にも記載されている。

指標の観点における達成状況は以下のとおりである。

指標項目	達成状況
3-1　作成された普及計画の内容	● 第5年次プロジェクト成果普及計画書において、普及対象となる村落の選定方法、普及活動において必要となる説明マテリアル、県・郷などの役割分担等、一連のプロセスが提示されている。
3-2　作成されたマニュアル及び教材の数、内容、その活用状況	● プロジェクト期間中を通じて、下記のマニュアルが作成された。 1年次：研修マニュアル 2年次：活動マニュアル（生計向上/生活改善）I 3年次：活動マニュアル（生計向上/生活改善）II 4年次：参加型アプローチマニュアル 技術マニュアル ＊プロジェクト成果報告書内にて記載。 5年次：4年次マニュアルを補足 ● マニュアルはそれぞれの必要内容を満遍なく網羅している。県・郷関係者のマニュアル活用状況については、適宜利用され始めているものの、更に有効利用されてゆくことが望ましい。
3-3　研修等（実施回数20回以上、参加人数500人以上）及び内容	● 終了時評価時点までに計18回の活動紹介ワークショップを実施し、参加者数は675人に及んだ。

4-2-2　プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標:　プロジェクト活動対象 2 村における実証を通じて、住民参加型手法による生態環境の保全と、農業生産性の向上を備えた農業農村開発（栽培技術の向上、集約作物の導入等）にかかる、持続可能な発展のための事業モデルを形成するとともに、活動対象 2 県内における紹介・普及を目指す

（指標）

1-1　プロジェクトのパイロット実証事業に参加した 2 県（2 村）における住民のうち彼らの生産・生活条件及び対象地域の生態環境が改善したと認識している住民の比率：70%

1-2　事業モデルを拡大、継続するための予算が関係する行政機関に確保され、必要な連携が行政機関間で図られる

1-3　活動対象県内（2 県）で事業モデルが紹介・普及された村の数とその実践内容：

40 村

プロジェクト目標はプロジェクト完了時までに達成される見込みが高い。

本プロジェクト目標の主たるポイントは、①事業モデルを形成すること、および②同モデルの紹介および普及を目指すことである。事業モデルの骨格は既に形作られているが、先述のとおり、モデル内容について日中関係者双方で意識を共有することが必要である。また、後者のポイントである、紹介および普及に向けた活動は、日本側専門家チームおよび州・県・郷関係者による活動紹介ワークショップを多数実施したことによって達成されているといえる。

指標にかかる達成状況は下記のとおりである。

<table>
<tr><th>指標項目</th><th>達成状況</th></tr>
<tr><td>1-1 プロジェクトのパイロット実証事業に参加した2県（2村）における住民のうち彼らの生産・生活条件及び対象地域の生態環境が改善したと認識している住民の比率：70%</td><td>● 美姑県洛覚村で2013年4月に実施した全戸アンケート調査結果は下記のとおりである。「少し改善」および「大きく改善」を合算すると、それぞれ95%以上がプロジェクトによる正の変化を認識していることが分かる。

表：生活状況・生産状況の変化にかかる認識
<table>
<tr><th></th><th>大きく改善</th><th>少し改善</th><th>変化なし</th></tr>
<tr><td>回答数</td><td>41</td><td>143</td><td>5</td></tr>
<tr><td>比率</td><td>22%</td><td>76%</td><td>2%</td></tr>
</table>
表：生態環境の変化にかかる認識
<table>
<tr><th></th><th>大きく改善</th><th>少し改善</th><th>変化なし</th></tr>
<tr><td>回答数</td><td>45</td><td>137</td><td>7</td></tr>
<tr><td>比率</td><td>24%</td><td>72%</td><td>4%</td></tr>
</table>
● なお、寧南県拉堡村でのアンケート調査が未だ実施されていない。プロジェクト完了時点までには実施する必要がある。</td></tr>
<tr><td>1-2　事業モデルを拡大、継続するための予算が関係する行政機関に確保され、必要な連携が行政機関間で図られる</td><td>● 活動紹介ワークショップの実践を通して、関係行政機関での役割分担および連携が実際に図られてきた。
● 事業モデル拡大・継続については、州科学技術局がプロジェクト終了後から、寧南県、美姑県でそれぞ</td></tr>
</table>

	れ24村落を対象に本プロジェクトの成果を活用した事業を行なうことを計画している。
1-3　活動対象県内（2県）で事業モデルが紹介・普及された村の数とその実践内容：40村	● プロジェクトの活動紹介は4年次に2郷8村、5年次に16郷（15郷1鎮）の49村にて実施しており、合計57村に達する。

4-2-3　上位目標の達成見通し

上位目標:　涼山州金沙江流域の土水流失の多い丘陵地帯で生態環境が維持･改善される

（指標）

１．事業モデルが涼山州金沙江流域に普及される（普及された県や村の数とその実践内容および生態環境の維持・改善状況）:180 村

上位目標が達成される見込みはある。

本プロジェクトによって構築された事業モデルは、涼山州政府のイニシアティブによって、プロジェクトが終了後、寧南県および美姑県の48村落を対象に事業を展開する計画となっている。上位目標の内容自体は広範かつ遠大であるが、指標の観点においては達成することが可能と考えられる。

4-3　プロジェクトの実施プロセス

4-3-1　コミュニケーション

関係者間（日本人専門家チームー州ー県ー郷ー村）のコミュニケーションは、プロジェクト開始初年度および次年度には、希薄になっていた時期も見られたが、3 年次に当たる 2011 年度からは、州、県のプロジェクト弁公室（＝科学技術局）を中心にして情報交換もなされており、徐々に改善してきたと評価できる。また、下記に示すとおり隔月のモニタリング･ワークショップ開催やニュースレターの発行を通じて、州、県、郷、村等の関係者間での情報共有にかかる努力もなされてきた。

このように全般的にプロジェクト期間を通じて、コミュニケーションは徐々に円滑になっていったと言えるが、しかしながら最後まで専門家チームと州・県政府の間では其々必要な情報が折々で得られず、改善を求める意見が最後まで聞かれた。例えば、中国側は JCC をはじめとした各種会議の場で、今後のプロジェクト活動の方向性こそ把握できるものの、活動にかかる投入規模や裨益規模が分からないことに情報不足を感じていた。一方、日本側専門家チームも、プロジェクト対象地域において展開される政府事業の予定を把握出来ないといった問題に直面した。例えば、相反する政府主導型のアプローチを採用する事業がプロジェクト対象地域で専門家チームの知らぬ間に開始され、プロジェクト活動に参加する農民が両事業の板挟みに合うといった事態も見られた（政府事業の全量買い取りといった条件に興味を示し、プロジェクト活動への参加モチベー

ションを低下させる事態が一部で見られた～美姑県洛覚村のジャガイモ生産活動の例)。

また、プロジェクト開始当初に遡れば、RD 締結時からプロジェクト開始に至るまでの日中双方のコミュニケーションが不足していたことも指摘される。中国側は要請書に求めていたプロジェクトの予算規模が了承されたか否か不明瞭なままプロジェクトが開始されてしまい、プロジェクトを預かるカウンターパート機関として不安を感じていたことを今般終了時評価で表明している。

また、プロジェクトが目指していた参加型アプローチの根本理念を日中双方が十分に相互理解して活動を進めてきたとは言えない面も、今般調査では明らかとなった。参加型アプローチに関する共通理解を進めることが、いわば本プロジェクト目標の根本的なひとつの課題でもあったことに鑑みると、日中双方で「参加型とは」といった根本的な課題に関するコミュニケーションの頻度および質にも改善の余地があったと考えられる。

4-3-2　モニタリング体制および実施状況

モニタリングについては十分な体制が敷かれている。

村落での活動進捗については、隔月でモニタリング・ワークショップが実施されており、パイロット村の住民、県、郷の関係者などによって、活動実績の確認と今後の計画および課題について情報共有がなされている。また、あわせてワークショップの結果などを含めて、ニュースレターも作成、配布されており、関係者間への情報発信とフィードバックを兼ねた効果を発揮している。

第5章　終了時評価調査結果

5-1　評価5項目による評価

5-1-1　妥当性

(1) 中国政府の政策・開発計画との整合性

中国政府は、農村貧困対策として農村扶貧開発要綱（2001 年-2010 年）や社会主義新農村建設を重要施策として打ち出し、全国規模での取り組みをこれまで進めてきた。

また、第 12 次 5 カ年計画（2011-2015 年）では、「農村の生産・生活条件の改善（第 7 章)」を掲げ、新農村建設を更に押し進めるとともに、「農地保護や生態系涵養などの空間配置を定め、農村の生産・生活のインフラ、公益事業を統一的に企画する」ことを謳っている。さらに、同計画「西部大開発の新ラウンド推進（第 18 章)」においても、西部地域の生態環境保護を進めながら、経済成長を促進することが謳われている。

以上の点から、本プロジェクトが包含する活動および目標は、中国政府の開発政策の方針に合致していると判断できる。

(2) 日本国政府の支援政策との整合性

日本の対中国経済協力計画は、重点支援分野として「環境など地球的規模の問題に対

処するための協力」を掲げており、具体的に「生態系の維持・回復には、水資源の管理や森林の保全･造成が重要であることを踏まえ､同分野での協力に努める｣としている。

また、対中国事業展開計画においても、「健全な社会発展の実現」を開発課題として掲げ、「都市・農村の格差是正に向けた取り組みを支援する」こととしている。

以上の点から、金沙江流域の生態保全と都市・農村の格差是正貧困緩和に資する本プロジェクトは、日本の援助計画に整合している。

(3) ニーズとの整合性

(3) -1　地域のニーズ

プロジェクト対象地域の金沙江流域では土壌流出による農業および生態環境への被害が深刻な問題となっており､2005年当時で水土流失面積は州内流域面積の49%を占め､年間土砂流失量は約1.2億トン､長江流域における流出量の20分の1を占めるに至っていた。

他方、地域の生活レベルについては、平均収入が2,000元/年（2005年、約3万円）を下回り、中国政府の貧困対策重点地域に指定されている地域が数多く点在していた。

以上の点から、地域の土壌流出を防止し、かつ貧困削減に資する本プロジェクトは対象地域のニーズに整合しているものと判断できる。

(3) -2　アプローチにかかるニーズ

近年の中国は､大量規模の物資投入型の支援事業が必ずしも効率性が高くないことを認識し始めており、低コストおよび事業の持続性を期待できるといった観点から、参加型アプローチの有効性を徐々に意識し始めているといわれている。この点において、本プロジェクトが参加型アプローチのひとつの模範的な形態を提示したことは､中国側のニーズに即していたと言える。

ただし､実際にプロジェクトが開始されて以降は、本プロジェクトが示す参加型アプローチを中国側のカウンターパートに理解してもらうことは思うように進まず､結果的に本終了時評価の現在に至るまで､両者間の参加型アプローチに関する理解にはギャップが残った。言うなれば、中国側にニーズはあったものの、その内容は中国側が求めていた理想図とやや異なっていたということになる。ただし､「プロジェクトの達成状況：成果 2」に記したとおり、最終的な完了時点まで約 6 か月の間に、中国側の考える参加型アプローチとの調整を行なうことは可能であろう。

(5) パイロット地区選定の適切性

パイロット活動を実施するに当たっては､選定されるパイロット地区がその普及計画地域におけるモデル性（代表性）を有していることが求められる。この点において、現在活動の中心となっている寧南県と美姑県は､同対象地域の分類として呼称されている「大涼山」地域と「小涼山」地域に夫々属しており、自然条件や社会経済条件において明確な違いを有している。

実際の普及に際しては個々県および村落での特性に勘案した調整が求められるものの、大枠での地域分類を代表する選定となっており、パイロット地区の選定としては妥当と考えられる。

(6) 日本国技術の優位性

日本は多くの国々において、参加型開発手法による農村開発支援を数多く実施してきた経験を有している。また村落での活動を構成するコンポーネントである、持続的農業技術の開発や生活改善等々の個別アプローチにおいても地域特性に即した適正技術の開発に数多く取り組み、技術面およびその普及方法においても、多くの経験・知見を蓄積している。

本プロジェクトは、このように日本が開発支援において蓄積してきた経験・知見を有効に活用できるプロジェクトであり、優位性を有したプロジェクトデザインと評価できる。

5-1-2 有効性

(1) プロジェクト目標および成果の達成度

本プロジェクトの目標および成果は、達成に向けて徐々に実績を積み重ねている。

プロジェクトが目指した事業モデルの骨格は既に形作られているが、未だ参加型アプローチの考え方を巡って、日中の関係者間では完全に理念や方法を共有していない面も見られる。そのため、終了時評価時点の判断としては「目標および成果はプロジェクト完了時までに達成する見込みが高い」にとどめた。

(2) プロジェクト目標・成果達成にかかる貢献要因

- 農業・林業等にかかるスタディツアーが、参加者に多くの知見を与えるとともにモチベーションを向上させる効果をもたらした。
- プロジェクトは、日本語能力および、日本人専門家との活動を通して一定レベルの技術専門性を獲得した調整員を雇用している。このことによって、日本人専門家不在時の活動促進および活動モニタリングが可能となった。また、美姑県においては常駐のパイロット管理要員を配置し、現場レベルでのプロジェクト活動をフォロー、モニタリングする体制を整備した。これらの人的配置がプロジェクト活動の円滑化に貢献したものと考えられる。

(3) プロジェクト目標・成果達成にかかる阻害要因

- コミュニケーションの項に記載のとおり、参加型アプローチにかかる日本側の考え方と中国側の考え方の違いを擦り合わせ、調整することに日中両者間で多大な努力および苦労があった。また、プロジェクト開始当初の農村資源調査や農民大会などのワークショップが参加型アプローチにとっては重要な活動であり、且つ参加型の理念を関係者間で共有する場であったが、その当時に出席していたカウンターパートの一部が

人事異動などでプロジェクトを離れた例も見られた。人事異動そのものはやむを得ない事情であるが、開始当時の理念共有の場を経験していないまま、新たに着任したカウンターパートにとっては、プロジェクト活動の意義を理解することが難しかった局面も度々見られた。

- プロジェクトは参加型アプローチを基礎として、徐々に住民の信頼を得ながら住民のモチベーションを向上させてきたものの、突如として政府による支援事業が開始されてしまい、結果として参加住民のモチベーション低下を招くことがあった（美姑県のジャガイモ生産基地事業など）。

5-1-3　効率性

（1）人的投入（日本側）

日本人専門家の投入にかかる人数、専門性、派遣タイミングについては概ね適切であるが、他方、派遣期間については業務量に比してやや不足していると考えられる。

ただし、これまで現地雇用の調整員を追加投入したり、週末を利用して村落へ移動したりするなどの調整努力を通じて、プロジェクト進捗そのものに大きな影響は生じていない。

（2）人的投入（中国側）

カウンターパートはそれぞれの行政レベルにキーパーソンが配置されている。

県や郷レベルの幹部層において人事異動が幾度かあったために、技術移転および情報伝達の観点からは若干の効率性損失も見られた。しかしながら、総じては県レベルのカウンターパートを中心として、日本人専門家との協同活動が増加かつ定着している事実からは、概ね十分な人的投入がなされていると判断できる。

また、州レベルではプロジェクト弁公室を設けたり、専属カウンターパートを配置したりするなどの投入も効率性の向上に寄与している。ただし、州レベルでの継続的な人的投入は専属であった一人のカウンターパートのみであり、プロジェクト期間中を通じては、州の関係部局（農業、林業、畜産等）は JCC 等の会議に参加する程度であった。

（3）物的投入

本プロジェクトの物的投入は移動に必要な車輌および事務機器等に限定されており、過大な投入はなされていない。また、投入資機材は現時点まで良好な状態で利用されている。

（4）ローカルコスト負担

一部、県職員の現地活動手当て（日当）をプロジェクト側が請け負っているが、その点を除いて概ねローカルコスト負担に問題は無い。

また、パイロット対象から外れた 3 県での活動継続に対して、中国側は予算投入を行

っており[2]、本予算の投入によって、プロジェクトが 5 県を対象とするフレームワークは保持されている。

5-1-4　インパクト

（1）波及効果

（経済面：収入向上）

プロジェクト活動の成果として、一部の参加農民において明らかな収入向上が見られた。 寧南県ではクルミ苗木の販売を通して、3 農家が 1 万～2 万元の売り上げを得た。また、クルミの果実としての販売も来年から期待できる。さらにサンショウの販売も今年から少しずつではあるが開始した。

美姑県においてもリボルビング方式で生まれた美姑ヤギの販売を通して、2 千元以上の売り上げを得た農家が複数見られる。この他、ジャガイモや養豚からの収入増も生じている。

（社会面：生活改善）

美姑県で実施した「人畜分離」活動によって、「居住者の健康状態が改善した（下痢の減少、虫刺され減少等）」や「家屋内が衛生的になった」との認識を示す家庭が多数見られた。同じく美姑県における改良かまどの導入によって、子供の火傷が減少したことや薪の消費量が減ったことに伴い、女性を中心に薪拾いの労働力が軽減されたことも報告されている。

（社会面：住民意識）

住民の意識変化は確実に生じている。村落でのワークショップにおいても自らの代の裨益を追及するのではなく、長期的な子孫の代の裨益を考えたコメントや実際の活動（植林など）も散見されるようになっている。

（社会面：インフラ）

プロジェクト開始後、美姑県において県城から対象村落までの道路や橋梁などインフラが整備された。また、寧南県においても対象村落内の道路が本プロジェクトとの関連において整備された。これらは本プロジェクトの実施を契機として、県政府が本地域へのインフラ整備を優先させたことに拠るものと考えられる。

（社会面：周辺村落への広がり）

パイロット村落での取り組みが周辺村落に普及し始めた例が見られる。寧南県の対象村落でクルミ栽培が順調に進んでいることに伴い、周辺村落がクルミ栽培に更に興味を示すようになった（基本的に以前から同地域ではクルミ栽培は行なわれていた）。周辺

[2] 州科学技術局の説明によれば、3 県において 2011 年度から 3 年間に亘り、支援事業を展開してきたとのこと。金陽県では養豚事業、会東県では貯水タンクおよび水路敷設、布施県では羊飼育事業を実施し、それぞれで約 48 万元/村の資金が投入された。

村落からの種・苗木の供与依頼を受けた郷政府は、現在既に郷内の全5村落に対して無償でクルミの種・苗を配布している[3]。

また、美姑ヤギもパイロット村落の隣村（七色村）で普及させる計画が進められている。本プロジェクト実施前まで、美姑ヤギは本パイロット村落のような高地では飼育が不可能と考えられていた。しかしながら、本プロジェクトが成功したことによって、同地理条件の隣村でも美姑ヤギの飼育が可能であることを確信でき、そのため導入計画が進められるようになった。

5-1-5　自立発展性

（1）政策面

第12次5カ年計画などに見られるとおり、貧困削減や少数民族対策、生態保全を目標とした活動は、今後も政策的支援を得られる可能性が非常に高い。

他方、参加型アプローチについては、中国でも近年徐々に受益者負担や民間参加の重要性などが言われるようになっており、大きな方向性としては中国政府による事業実施の視点として浸透してゆく可能性が高いと考えられる。ただし、本プロジェクトが提示してきた時間と手間を要する、きめ細かい参加型アプローチが採用されるまでには、まだ相応の時間が必要であろう。今般の終了時評価調査でのカウンターパート聞き取り調査においても、「中国も以前から参加型事業を展開している」との声が多く聞かれた。いわゆる「動員型」の参加型事業という点では事実であるが、本プロジェクトが取り組んできた、住民のエンパワメントを求める、いわば「能動型」であり、かつ「問題解決型」の参加型アプローチの採用については、まだ政府側関係者の意識といった点からも時間を要するものと予測される。

（2）組織面

本プロジェクトが策定する「事業モデル」は、現状の州-県-郷-村の各行政組織の枠組みおよび連携の仕組みを利用する。事業が目指す個々の活動内容には、それぞれに対応する各種セクター部署が設けられており（農業局、林業局等）、組織構成の観点からは自立発展性が概ね担保されている。

（3）技術面

本プロジェクトが取り組んできた技術は、基本的に中国における既存技術であり、州および県職員で対応が可能である。そのため、各セクターに特化した分野技術については自立発展性が高いと考えられる。

他方、参加型アプローチにかかる各種手法ついては、これまでの一連のプロジェクト活動を通じて、県や郷の職員が概ね習得したといえるが、今後はこれら習得した技術を同県内および周辺県・郷の職員に技術を伝播・移転してゆくことが課題となる。現在ま

[3] 寧南県は同県をクルミ生産基地とする方針を表明しており、県予算を中心にクルミ生産を促進する予定である。

でのところ、技術や知見の蓄積はカウンターパート個々人のレベルに留まっており、組織内での広がりは十分とは言えない状況にある。今後は、参加型アプローチに関する普及の役割を担う部署や個人の特定を行ない、組織内での研修を実施したり、現場でのOJT的な活動を行ないながら、これまでプロジェクトに参加してこなかった人員に対しても技術を伝播・普及してゆく取り組みが求められる。

（4）財政面

新農村建設計画に代表されるように、近年の中国では農村部の生活改善に資する事業に対して比較的潤沢な予算が充てられている。本プロジェクトの対象地周辺もこのような裨益対象に該当する地域であることから、今後も財政面での自立発展性は概ね担保されていると判断できる。

第6章　結論

本プロジェクトは、近年中国でも重視されている住民参加型アプローチを採用した、いわゆる村落開発プロジェクトであり、中国側の政策面およびニーズ等に合致した取り組みであった。実際にパイロット活動を実施した二つの村落では、経済面、社会面で多様な正のインパクトが生じている。他方、本プロジェクトで採用した住民参加型アプローチの一部について、日本側と中国側で考え方に未だ乖離が見られる。今後、本プロジェクトの成果を事業モデルとして拡大、普及させてゆくために、日中関係者間で事業モデルに関する理念の共有ならびに必要に応じた調整作業が残されている。

添付資料

別添１プロジェクト投入実績

別添２PDM

別紙1

専門家派遣実績（コンサルタント）

2013年6月30日現在

予算年度 (派遣開始時)	指導分野	氏名	派遣時所属先	期　　間	備考
2009	総括／農村開発	後藤　道雄	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2009.05.31-2009.06.14 （国内作業） 2009.06.15-2009.07.14 2009.11.25-2009.12.14	
	副総括／生活改善／生計向上	須藤　　晃	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2009.07.08-2009.09.20 2009.11.25-2009.12.14	
	農業技術／生産性向上	永井　和夫	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2009.07.08-2009.08.21 2009.11.10-2009.12.14	
	土地利用計画／土壌保全	柴田　俊英	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(補強)	2009.06.15-2009.08.21 2009.11.19-2009.12.14	
	畜産振興	折田　岩美	JOFCA(補強)	2009.08.09-2009.10.22	
	植林／造林／草地管理	豊田　貴樹	JOFCA	2009.06.15-2009.08.28 2009.11.23-2009.12.22	
	参加型研修／研修計画	加藤　和久	JOFCA	2009.06.15-2009.09.27 2009.11.10-2009.12.14	
	農村社会経済／事業評価	山下　秀勝	JOFCA	2009.06.15-2009.08.13 2009.10.25-2009.12.08	
	中国語通訳	古川　　明	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(補強)	2009.06.15-2009.07.14 2009.11.25-2009.12.14	
	業務調整／プロジェクト管理	大石　貴行	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2009.07.08-2009.09.15 2009.11.25-2009.12.24	自社負担2009.08.07-09.05
2010	総括／農村開発	後藤　道雄	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2010.04.13-2010.05.12 2010.11.10-2010.12.24	
	副総括／生活改善／生計向上	須藤　　晃	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2010.03.10-2010.05.08 2010.08.15-2010.09.30 2010.10.13-2010.12.24	
	農業技術／生産性向上	永井　和夫	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2010.08.09-2010.09.30 2010.10.19-2010.12.24	
	土地利用計画／土壌保全	柴田　俊英	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(補強)	2010.03.10-2010.06.27 2010.11.10-2010.12.19	
	畜産振興(1)	折田　岩美	JOFCA(補強)	2010.03.21-2010.05.19 2010.10.10-2010.12.08	
	植林／造林／草地管理(1)	豊田　貴樹	JOFCA	2010.03.10-2010.04.08 2010.11.15-2010.12.14	
	参加型研修／研修計画	加藤　和久	JOFCA	2010.03.08-2010.05.02 2010.06.02-2010.06.27 2010.08.15-2010.12.24	自社負担2010.12.22-12.24

	農村社会経済／事業評価 植林／造林／草地管理(2)	黄　　勝澤	JOFCA	2010.05.12-2010.07.10 2010.10.05-2010.12.08	自社負担2010.12.04-12.08
	中国語通訳	古川　　明	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(補強)	2010.04.13-2010.05.12 2010.11.10-2010.12.24	
	業務調整／プロジェクト管理 畜産振興(2)	猪ノ口　愛	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2010.10.13-2010.12.24	自社負担2010.12.12-12.24
2011	総括／農村開発	後藤　道雄	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2011.03.25-2011.04.08 2011.11.20-2011.12.24	
	副総括／生活改善／生計向上	須藤　　晃	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2011.02.12-2011.02.16 2011.04.21-2011.05.20 2011.10.10-2011.11.03 2011.11.25-2011.12.04 2011.12.12-2011.12.24 2011.12.25-2011.12.31 (国内作業)	自社負担2011.02.12-02.16
	農業技術／生産性向上	永井　和夫	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2011.03.08-2011.04.06 2011.07.30-2011.08.28	
	畜産振興(1)	折田　岩美	JOFCA(補強)	2011.04.03-2011.04.27 2011.08.13-2011.09.01	
	参加型研修／研修計画	加藤　和久	JOFCA	2011.06.02-2011.07.01 2011.08.27-2011.09.25	
	農村社会経済／事業評価 植林／造林／草地管理(2)	黄　　勝澤	JOFCA	2011.03.23-2011.04.26 2011.07.06-2011.07.26 2011.09.15-2011.11.17	
	中国語通訳	古川　　明	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(補強)	2011.03.25-2011.04.08 2011.11.20-2011.12.24	
	業務調整／プロジェクト管理 畜産振興(2)	猪ノ口　愛	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2011.04.15-2011.06.13 2011.10.30-2011.12.24	自社負担2011.05.15-06.13 自社負担2011.10.30-11.24
2012	総括／農村開発	後藤　道雄	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2012.03.19-2011.04.17 2012.10.22-2012.11.20	
	副総括／生活改善／生計向上	須藤　　晃	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2012.04.09-2012.04.28 2012.07.23-2012.09.07 2012.10.14-2012.11.20	
	農業技術／生産性向上	永井　和夫	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2012.10.22-2012.11.20	
	畜産振興(1)	折田　岩美	JOFCA(補強)	2012.10.22-2012.11.20	
	参加型研修／研修計画	加藤　和久	JOFCA	2012.03.19-2012.04.20 2012.10.24-2012.11.13	
	農村社会経済／事業評価 植林／造林／草地管理(2)	黄　　勝澤	JOFCA	2012.03.19-2012.04.17 2012.05.22-2012.06.30 2012.08.20-2012.11.16 2012.11.28-2012.12.17	
	中国語通訳	古川　　明	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(補強)	2012.03.19-2012.04.17	
	中国語通訳	小田　幸雄	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(補強)	2012.10.22-2012.11.20	

	業務調整／プロジェクト管理 畜産振興(2)	猪ノ口　愛	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2012.03.19-2012.04.17 2012.08.04-2012.10.02 2012.11.22-2012.12.21	
2013	総括／農村開発	後藤　道雄	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2013.11.25-2013.12.24(予定) 2014.01.15-2014.02.03(予定)	
	副総括／生活改善／生計向上	須藤　　晃	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2013.04.09-2013.05.24 2013.09.05-2013.10.02(予定) 2013.11.25-2013.12.24(予定) 2014.01.15-2014.02.03(予定)	
	農業技術／生産性向上	永井　和夫	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2013.06.01-2013.06.30	
	畜産振興(1)	折田　岩美	JOFCA(補強)	2013.06.19-2013.05.24	
	参加型研修／研修計画	加藤　和久	JOFCA	2013.06.01-2013.06.30 2013.11.25-2013.12.17(予定)	
	農村社会経済／事業評価 植林／造林／草地管理(2)	黄　　勝澤	JOFCA	2013.04.09-2013.06.10 2013.08.31-2013.09.30(予定) 2013.10.10-2013.11.17(予定) 2013.11.25-2013.12.24(予定) 2014.01.15-2014.02.03(予定)	
	中国語通訳	古川　　明	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(補強)	2013.11.25-2013.12.24(予定) 2014.01.15-2014.02.03(予定)	
	業務調整／プロジェクト管理 畜産振興(2)	椰野　愛 (旧姓：猪ノ口)	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2013.06.01-2013.06.30 2013.10.05-2013.11.05(予定) 2014.01.09-2014.02.03(予定)	

カウンターパート配置実績（涼山州政府）

No.	氏名	所属、役職名	担当分野	配置期間	C／P 日本人 専門家	訪日研修 （出発月）	備考（役職、異動等）
1	周　大海	州科技局　局長		2009年６月～現在		2011/2/23	
2	王　会蓮	州科技局　副局長		同上			
3	譚　平	州科技局　課長		同上		2012/3/8	
4	胡　光亞	州科技局　副主任		2009年６月～2013年２月			人事異動による転勤
5	趙　超	州農業局　総農芸師（講師）		同上		2011/2/23	
6	劉　健	州牧畜局　講師		同上		2012/3/8	
7	楊　洪彬	州林業局　副局長		同上			
8	侯　川華	州衛生局　副局長		同上			
9	趙　建明	州水利局　副局長		同上			
10	唐　波	州教育局　副局長		同上			
11	胥 国栄	州貧困対策弁公室　副主任		同上			
12	馬　剛	州科技局　職員		2013年2月～現在			（胡　光亞氏後任）

カウンターパート配置実績（美姑県）

No.	氏名	所属、役職名	担当分野	配置期間	C／P 日本人 専門家	訪日研修 （出発月）	備考（役職、異動等）
1	阿以 拉則	科技局　局長		2009年６月～2011年３月		2011/2/23	人事異動による転勤
2	吉克　妈麻	科技局　職員		同上			人事異動による転勤
3	呉　利文	農業科技局　副局長		2011年４月～現在		2012/3/8	
4	陳　曉輝	農業科技局　職員		同上			
5	海来　吉木	農業科技局　課長		2009年６月～現在			
6	海来　魯也	林業局　課長		2009年６月～現在			
7	阿璽　阿布	牧畜局　職員		2009年６月～現在			
8	呉　加勇	合姑洛郷　郷長		2009年６月～現在			

カウンターパート配置実績（寧南県）

No.	氏名	所属、役職名	担当分野	配置期間	C／P 日本人 専門家	訪日研修 （出発月）	備考（役職、異動等）
1	殷　崇洪	科技局　局長		2009年６月～2011年３月			人事異動による転勤
2	樊　飛雄	科技局　局長		2011年４月～2012年８月			人事異動による転勤
3	蒋　涛	科技局　局長代理		2012年８月～2012年12月			
4	蒋　文振	科技局　局長		2012年1月～現在			
5	呉　賢友	科技局　副局長		2009年６月～現在		2011/2/23	
6	劉　順雲	林業局　課長		2009年６月～現在			
7	全　玉忠	農業局　課長		2009年６月～現在			
8	羅　方憲	牧畜局　課長		2009年６月～現在			
9	陳　煌輝	倮格郷　職員		2009年６月～2010年4月			業務担当変更による変更
10	俄比呻底	倮格郷　副郷長		2010年５月～2011年2月			
11	楊　正友	倮格郷　副郷長		2011年３月～2012年5月			
12	俄的　呷日	倮格郷　副郷長		2012年5月～2013年4月			
13	范 依伙	倮格郷　職員		2013年4月～現在			

携行機材リスト

州科技局プロジェクト執務室用機材

機材名	数量		型番/仕様
コピー機	1	台	型番: Fuji Zerox、Docucentre 2003 仕様: 白黒印刷、両面ｺﾋﾟｰ、ｿｰﾄ、ﾌｨｰﾀﾞｰ、ｽｷｬﾝ付
プリンター	1	台	型番: Canon LBP5050 仕様: A4対応、白黒/ｶﾗｰ
デスクトップコンピューター	1	台	型番: Lenovo A6800R 仕様: 2Gﾒﾓﾘ、320GHDD、LCDﾓﾆﾀｰ付、DVD付、XP Home
ノートコンピューター	1	台	型番: Lenovo V450-TSI 仕様: 2Gﾒﾓﾘ、320GHDD、DVD付、XP Home
プロジェクター	1	台	型番: 東芝TDP-XP1 仕様: DLP方式
ファックス	1	台	型番：Panasonic 709 仕様: A4対応
デジタルカメラ	1	台	型番：Canon EOS500D

専門家チーム執務室（美姑県）用機材

機材名	数量		型番/仕様
コピー機	1	台	型番: Fuji Zerox、Docucentre 2007 仕様: 白黒印刷、両面ｺﾋﾟｰ、ｿｰﾄ、ﾌｨｰﾀﾞｰ、ｽｷｬﾝ付
プリンター	1	台	型番: Canon LBP3300 仕様: A4対応、白黒/ｶﾗｰ
デスクトップコンピューター	1	台	型番: Lenovo A6800R 仕様: 2Gﾒﾓﾘ、320GHDD、LCDﾓﾆﾀｰ付、DVD付、XP Home
事務所備品	一	式	机、棚など

専門家チーム執務室（寧南県）用機材

機材名	数量		型番/仕様
コピー機	1	台	型番: Fuji Zerox、Docucentre 2007 仕様: 白黒印刷、両面ｺﾋﾟｰ、ｿｰﾄ、ﾌｨｰﾀﾞｰ、ｽｷｬﾝ付
プリンター	1	台	型番: Canon LBP3300 仕様: A4対応、白黒/ｶﾗｰ
デスクトップコンピューター	1	台	型番: Lenovo A6800R 仕様: 2Gﾒﾓﾘ、320GHDD、LCDﾓﾆﾀｰ付、DVD付、XP Home
事務所備品	一	式	机、棚など

県レベル事務所用機材（美姑県／寧南県対象、3年次追加分）

機材名	数量	形式・型番
ノートパソコン	１台づつ	LENOVO B460t3-380
スキャナ	１台づつ	HP(惠普)　hp4010
ファクス電話	１台づつ	松下　338
スキャナ	１台づつ	奥图码　DP338
カメラ（メモリカード付）	１台づつ	CANON（金士頓）　EOS500D（8G）

日本側ローカルコスト負担実績　　(2009-2012年度は精算額、2013年度は契約額)

単位：日本円

No.	項　目	費　目	予算年度					
			2009	2010	2011	2012	2013(新積算方式)	
1	一般業務費	傭人費	4,873,138	7,931,210	6,219,000	5,941,282	一般業務費	
		機材保守・管理費	185,028	348,695	404,000	262,605	①一般傭人費	0
		消耗品費	210,711	496,433	1,318,700	485,264	②特殊傭人費	3,906,514
		旅費・交通費	4,670,183	4,588,030	2,679,000	2,250,226	③車両関連費	2,409,514
		通信運搬費	108,948	237,004	526,700	200,064	④借料損料	376,740
		資料等作成費	816,089	1,349,265	904,000	311,154	⑤施設・機材保守管理費	27,820
		借料損料	0	0	0	0	⑥消耗品費	474,097
		光熱水料	17,365	51,023	69,300	32,401	⑦旅費・交通費	9,931,831
		人材養成確保費	0	0	0	0	⑧通信・運搬費	191,440
		施設・維持管理費	11,727	27,110	19,800	30,324	⑨資料等作成費	898,699
		現地研修費	163,640	423,418	230,000	74,149	⑩水道光熱費	29,810
		国内活動費	0	0	0	0	⑪雑費(*1)	2,993,342
		国内再委託費	0	0	0	0	成果品作成費	51,000
		雑費(*1)	2,715,324	4,620,550	11,602,000	3,925,543		
合　計			13,772,153	20,072,738	23,972,500	9,587,469	18,246,465	

総計（2009～2013）

85,651,325

(*1)パイロット活動経費

活動の達成度

活動		活動・達成状況	理由
1-1.	関係機関による責任体制を明確化し、事業実施のための連携、調整をおこなう	完了（第１年次業務及び第2年次業務）	
1-2.	プロジェクトの関係者の能力及び知識向上のための住民参加型農村開発にかかる研修を実施する	完了（第１年次業務及び第2年次業務）（4年次にも追加研修を実施）	
2-1.	農村の資源調査（土地利用、自然、社会経済、市場に関する情報）を行う	完了（第１年次業務及び第2年次業務）	
2-2.	住民参加型手法を活用し、生態環境保全に配慮した農村振興に係る活動計画（流域土地利用・保全計画／農業振興計画／農村生活環境改善計画）を策定する	完了（第１年次業務及び第2年次業務）	
2-3.	活動計画に基づき、モデル農家を選定する	完了（第１年次業務及び第2年次業務）*1	
2-4.	モデル農家においてパイロット活動（①生態環境保全に配慮した農業生産性向上に係る活動、②生態環境保全に配慮した農民の生活改善に係る運動）を実施する	実施中（パイロット活動の実施は5年次も継続中）	
2-5.	パイロット活動のモニタリングと評価を行い、結果を取りまとめて事業モデルとして確立する	完了（第4年次業務）（モニタリングは5年次も継続）	
3-1.	事業モデルの普及計画を作成する	完了（第4年次業務及び第5年次業務）	
3-2.	事業モデル普及のためのマニュアル及び教材を作成する	完了（第4年次業務及び第5年次業務）	
3-3.	事業モデルの紹介・普及を目的とした研修等を開催する（行政スタッフ、技術普及員、農民リーダー対象）	完了（第4年次業務及び第5年次業務）	

*1 モデル農家を選定してのパイロット活動実施は１、２年次の活動において採択した手法であったが、その後のパイロット活動の推移や関係者との協議を通じて、「各活動に20軒程度」というモデル農家の条件が実際のパイロット活動にそぐわない状況も生じてきたことから、３年次以降は（1､2年次でいうところの）モデル農家に限定しての活動は行っていない。

PDM進捗状況

a)成果

成果１（協力対象県（5県（5村））の関係者（州、県、郷鎮及び村レベル機関行政スタッフ及び農民）が参加型で農村開発を行う能力が向上する。）	
指標	1)定例会議の開催（実施回数32回以上、参加人数500人以上）と決定事項の内容
	2)研修（実施回数40回以上、参加人数700人以上）及び内容
達成度	1)定例会議としては州レベル（省代表も参加）のJCC（毎年１回）の他、パイロット現場村でのモニタリングワークショップを２ヶ月に１度開催している。また、各年次の終了直前に現場村にてパイロット活動の住民参加型年次評価を実施してきた。前者についてはすでに実施回数は総計28回、参加人数は累計で357人、後者については総計6回、参加人数162人となっており、合計で実施回数34回、参加人数は519人に達している（2013年6月末時点）。この双方とも、内容については各年次の中間報告書、年次報告書を参照のこと。
	2)参加型開発手法研修については、州科技局、県科技局、また県レベル各部局の職員に対して1年次、4年次と2回にわたり座学での研修を実施しており、また実施研修としての農村資源調査で座学で習得したインタビューや各種参加型ツールの現場での実際の用法の研修も行った。農民や村幹部は各パイロット活動において技術指導を受けており、また技術研修を目的としたスタデイツアーを開催しこれを通じて能力を発展させてきている。参加型開発研修はすでに4回、出席人数108人、技術研修は31回、出席人数は483人となっている。スタディツアーは郷内のみならず他県の先進地区に今のパイロット村の農民を連れていって実施しており、これまでに3回、79人が参加している。したがい、成果１における研修の総開催回数と総参加人数は38回、670人に達している。今年度（5年次）はスタディツアーが2回計画され30人の出席を予定していることから、PDMでの指標（40回、700人）を達成見込みである。

成果２（生態環境と調和した農業の持続性向上と農民生活の改善を図る事業モデルが確立する。）	
指標	1)実施された資源調査（数、内容）
	2)策定された農村振興に係る活動計画（数、内容）
	3)パイロット活動の成果（活動項目数、参加者数）
	4)実施されたモニタリング及び評価の内容
達成度	1)資源調査は１年次に先発2県の2村、２年次に後発3県の3村で実施し完了している。それぞれの報告書は１年次年間報告書（2県）、2年次年間報告書(3県）の添付資料を参照されたい。
	2)上述の5県（5村）の資源調査にもとづき、農村振興活動計画が5村で作成されている。内容は1年次契約の成果品としての農村振興活動計画書（先行2県の2村）、同じく2年次契約の成果品としての同計画書（後発3県の3村）を参照のこと。
	3)パイロット活動は現在も実施中である。現在までの活動項目数、参加者数についてはこれまでの定期報告書とパイロット活動計画書を参照のこと。また、対象村内で主に活動対象農民に対する様々な研修を行って技術の定着を促進したり、県外の優良事業へのスタディ・ツアーなどを実施して住民の意識変化を図っている。また成果として、これらの活動で良好な結果を得たものを事業モデルとして周辺村への紹介・普及を行っている。
	4)モニタリングについては上述の隔月モニタリングワークショップ、年末の参加型事業評価ワークショップを実施している。これらのモニタリングと評価の内容はそれぞれの年次の中間報告書、年度報告書に収録されているので参照されたい。

成果３（協力事業対象県内（5県）へ事業モデル紹介・普及する仕組を構築する。）	
指標	1)作成された普及計画の内容
	2)作成されたマニュアル及び教材の数、内容、その活用状況
	3)研修等（実施回数20回以上、参加人数500人以上）及び内容
達成度	1)事業モデルの普及計画は4年次成果品としての「プロジェクト成果普及計画書」にとりまとめられている。また、この計画書をもとに実際に4年次後半に事業モデル紹介活動を8村に置いて実施し、得られた教訓（内容、対象、教材の有効性など）を反映して5年次契約の成果品としての「プロジェクト成果普及計画書」を5年次の5月に提出している。
	2)パイロット活動のマニュアルは1年次から3年次までは技術協力成果品として毎年、実施した個々のパイロット活動のマニュアルをとりまとめて作成・提出するとともに特に郷村レベルの職員に配布している。4年次から5年次は、事業モデル紹介活動に教材として用いる「プロジェクト成果報告書」の一部分としてマニュアルをとりまとめ、紹介ワークショップにおいて郷職員や村幹部に説明・配布している。
	3)事業モデルの紹介は5年次に2県で16郷(正確には15郷と1鎮）、49村にて完了している。4年次に行った紹介活動まで含めて、これまでに18回の事業モデル紹介ワークショップを実施し、参加者数は675人となっている。

b)プロジェクト目標

プロジェクト目標（プロジェクト活動対象2村における実証を通じて、住民参加型手法による生態環境の保全と、農業生産性の向上を備えた農業農村開発（栽培技術の向上、集約作物の導入等）にかかる、持続可能な発展のための事業モデルを形成するとともに、活動対象2県内における紹介・普及を目指す。）	
指標	1)プロジェクトのパイロット実証事業に参加した2県（2村）における住民のうち彼らの生産・生活条件及び対象地域の生態環境が改善したと認識している住民の比率：70%
	2)事業モデルを拡大、継続するための予算が関係する行政機関に確保され、必要な連携が行政機関間で図られる
	3)活動対象県内（2県）で事業モデルが紹介・普及された村の数とその実践内容：40村
達成度	1)パイロット対象2村のうちのひとつ、美姑県合姑洛郷洛覚村で2013年4月に実施した全戸アンケート調査では、指標に記載された上記の認識を回答した住民の比率は94%に達している。
	2)モデル事業紹介は4年次から長期間行ってきたので、行政機関間での連携体制は構築されたと判断する。予算確保状況については中国側実施機関からの情報・資料を参照されたい。
	3)事業モデルの紹介は5年次に2県で16郷（15郷1鎮）の49村にて完了している。紹介活動の内容は5年次中間プロジェクト業務進捗報告書の添付資料を参照のこと。なお4年次にも紹介活動を2郷8村で実施しており、これを加えれば紹介活動を行った村の合計は57村に達する。

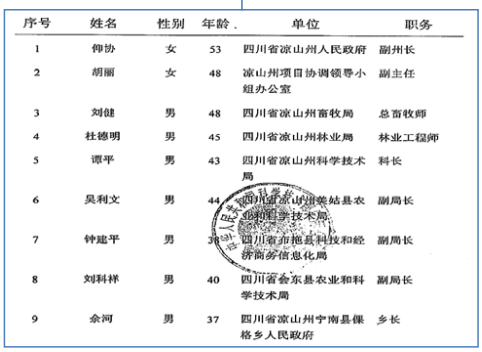
c)上位目標

上位目標（涼山州金沙江流域の土水流失の多い丘陵地帯で生態環境が維持・改善される。）	
指標	事業モデルが涼山州金沙江流域に普及される（普及された県や村の数とその実践内容および生態環境の維持・改善状況）:180村
達成度	現時点で達成度の予測は不可能である。今年次にチームがおこなった事業モデル紹介活動の内容につき、中国側がその重要性、有効性を理解し独自の活動として積極的に他地域に普及させていくか、に大きく左右されると思料する。

本邦研修実績

2013年7月31日現在

No.	予算年度	研修科目	氏名	受入機関	期間
1	2010	生態環境保全総合開発	周大海	JICA	2011.2.23-3.4
2	2010	生態環境保全総合開発	候川華	JICA	2011.2.23-3.4
3	2010	生態環境保全総合開発	趙　超	JICA	2011.2.23-3.4
4	2010	生態環境保全総合開発	楊燕秋	JICA	2011.2.23-3.4
5	2010	生態環境保全総合開発	藤艶梅	JICA	2011.2.23-3.4
6	2010	生態環境保全総合開発	阿以拉者	JICA	2011.2.23-3.4
7	2010	生態環境保全総合開発	呉賢友	JICA	2011.2.23-3.4
8	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012.3.8-17
9	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012.3.8-17
10	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012.3.8-17
11	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012.3.8-17
12	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012.3.8-17
13	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012.3.8-17
14	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012.3.8-17
15	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012.3.8-17
16	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012.3.8-17



序号	姓名	性别	年龄	单位	职务
1	仰协	女	53	四川省凉山州人民政府	副州长
2	胡丽	女	48	凉山州項目协调领导小组办公室	副主任
3	刘健	男	48	四川省凉山州畜牧局	总畜牧师
4	杜德明	男	45	四川省凉山州林业局	林业工程师
5	谭平	男	43	四川省凉山州科学技术局	科长
6	吳利文	男	44	四川省凉山州雅安站县农业科学技术局	副局长
7	钟建平	男	38	四川省冕宁县科技和经济商务信息化局	副局长
8	刘科祥	男	40	四川省会东县农业和科学技术局	副局长
9	余河	男	37	四川省凉山州宁南县保格乡人民政府	乡长

各種研修、会議等一覧

2013年6月30日現在

番号	年次	日時	場所	科目	講師		参加者		人数
					所属	氏名	所属	氏名	
1	1年度	2009年7月21-23日	西昌市	参加型手法研修	四川百瑞勤工程管理咨询有限公司	林凌 范隆庆 巫嘉伟	州、县各部门	州科技局 王会莲 州科技局 谭平 州科技局 钟先银 州科技局 胡光亚 州农业局 彭音 州林业局 杨洪彬 州畜牧局 刘健 州水利局 赵建民 宁南县科技局 殷崇洪 宁南县科技局 吴贤友 宁南县畜牧局 罗方宪 宁南县林业局 刘顺云 宁南县农业局 全玉忠 美姑县科技局 吉克妈麻 美姑县林业局 海来鲁也 美姑县农业局 海来吉木 美姑县水利局 王少东	23
2	2年度	2010年8月24-27日	西昌市	参加型手法研修	四川百瑞勤工程管理咨询有限公司	范隆庆 韩伟 张秀雷	州科技局、后三县各部门	州科技局 王会莲 州科技局 谭平 州科技局 胡光亚 布拖县科技局 钟建平 布拖县科技局 刘勇 布拖县农业局 穆鹏 布拖县林业局 宋超 布拖县畜牧局 杨程 布拖县水务局 俄底子鬼 金阳县科技局 阿说色日 金阳县科技局 阿力只牛 金阳县农业局 刘涛 金阳县林业局 陈国申 金阳县畜牧局 石一日约 金阳县水务局 吉好瓦色	20
3	2年度	2010年3月2日	美姑县洛觉村	土豆优良品种栽培方法	美姑县农业局	海来吉木	洛觉村村民	俄其作给、沈尔以培、曲比拉日、沈尔依副、俄比曲呷、曲比依勒、曲比以拉、曲比木吾、乌尔书一、曲比牛牛、吉吉妈史、吉拉日日、阿作尔格、吉吉达果、吉后曲日、吉吉说日、吉吉阿培、曲比支日、曲比阿夫	19
4	2年度	2010年3月16日	宁南县拉堡村	土豆优良品种栽培方法	宁南县农业局	秦开禄	拉堡村村民	曲么伍日、老伙初且、曲么子窝	3
5	2年度	2010年3月23日	美姑县洛觉村	参与式乡土玉米培育和栽培方法	美姑县农业局	吉俄打铁	洛觉村村民	俄其作给、曲比拉日、沈尔依副、吉拉依富、阿作木铁、曲比以洛、吉吉石古、吉吉木洛、曲比支日	9
6	2年度	2010年3月27日	宁南县拉堡村	太阳能热水器组装方法	日方项目组	须藤晃	拉堡村村民	曲么伍日、田友且、哈马牛聪	3
7	2年度	2010年4月6日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		12
8	2年度	2010年4月7日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		8
9	2年度	2010/5/9	美姑县洛觉村	改良炉灶制作方法	日方项目组	柴田俊英	洛觉村村民	沈尔以古、曲比木曲、俄木石布、曲比果果、曲比石布、吉吉拉夫、吉后门勒	7
10	2年度	2010/5/11	美姑县洛觉村	大棚蔬菜栽培方法及管理方法	日方项目组 美姑县农业局	柴田俊英 海来吉木	洛觉村村民	曲比达果、曲比达体、曲比为机、曲比支体、曲比牛牛	5
11	2年度	2010年6月2日	美姑县洛觉村	大棚番茄搭架培训会	日方项目组	柴田俊英	洛觉村村民	曲比达果、曲比达体、曲比为机、曲比支体、曲比牛牛	5
12	2年度	2010年6月8日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		21
13	2年度	2010年6月8日	宁南县拉堡村	大棚蔬菜的育苗方法	日方项目组	柴田俊英	拉堡村村民	曲么歪聪、杨此牛、石日海、赵则初	4
14	2年度	2010年6月10日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		16
15	2年度	2010年6月11日	宁南县拉堡村	经济林种植方法	日方项目组	黄胜泽	拉堡村村民	曲么拉曲、吉尔史歪、唐以发、唐色以、唐友初、石强、石春、何牛也、蔡伙初、鲁友日・鲁子日、陈吉嘿、赵小俄、马長友、赵子沙、鲁华、哈马牛聪、田子哈、吉伙色干、安吉日、马金伍、啊咪子初	21

16	2年度	2010/6/20	美姑县洛觉村	经济林种植及管理方法	日方项目组	加藤和久 黄胜泽	洛觉村村民	曲比海石、吉拉以服、吉拉日日、张国志、吉吉有布、吉巴夫一、乌尔书一、阿西干儿、曲比布日、曲比克石、曲比牛牛、吉曲为石、曲比洛格日、张国也、吉吉马史、曲比支体、吉吉三哥、阿作木铁、阿作尔格、吉后曲日、吉吉格布、曲比以洛、吉吉达果、吉吉石古、吉后木拉、吉吉木洛、曲比支日、曲比勤石、吉吉解放、吉吉史达、吉吉说日、吉吉阿培、曲比尔夫、吉吉木达、吉吉医夫	35
17	2年度	2010年7月6日	宁南县拉堡村	经济林橘橙种植回填方法	宁南县农业局	何顺亮	拉堡村村民	马金伍、哈马牛也	2
18	2年度	2010年8月13日 9月24日	美姑县洛觉村	冬季番茄培育技术培训会	日方项目组	永井和夫	洛觉村村民	曲比达果、曲比达体、曲比为机、曲比支体、曲比牛牛	5
19	2年度	2010年8月16日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		8
20	2年度	2010年8月18日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		12
21	2年度	2010年8月26日	宁南县拉堡村	大棚番茄搭架技术培训会	日方项目组	永井和夫	拉堡村村民	曲么歪聪、杨此牛、曲么留日、石日海、赵则初	5
22	2年度	2010年9月27日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		15
23	2年度	2010年9月29日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		10
24	2年度	2010年10月10日	美姑县洛觉村	核桃种植及管理方法	日方项目组	黄胜泽	洛觉村村民	曲比拉日、曲比拉拉、曲比海石、吉拉以服、吉拉日日、张国志、吉吉有布、吉巴夫一、乌尔书一、阿西干儿、曲比布日、曲比克石、曲比牛牛、吉曲为石、曲比洛格日、张国也、吉吉马史、曲比支体、吉吉三哥、阿作木铁、阿作尔格、吉后曲日、吉吉格布、曲比以洛、吉吉达果、吉吉石古、吉后木拉、吉吉木洛、曲比支日、曲比勤石、吉吉解放、吉吉史达、吉吉说日、吉吉阿培、曲比尔夫、吉吉木达、吉吉医夫	37
25	2年度	2010年11月9日	宁南县拉堡村	核桃种植现场技术指导会	日方项目组	黄胜泽	拉堡村村民	曲么拉曲、吉尔史歪、赵子作、安吉日	4
26	2年度	2010年11月17日	宁南县拉堡村	年末项目评价研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村干部村民		29
27	2年度	2010年11月22日	宁南县拉堡村	大棚番茄搭架技术培训会	日方项目组	永井和夫	拉堡村村民	杨此牛、曲么留日	2
28	2年度	2010年12月2日	美姑县洛觉村	年末项目评价研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村干部村民		25
29	2年度	2010年12月5日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		9
30	2年度	2010年12月9日	宁南县拉堡村	大棚番茄搭架技术培训会	日方项目组	永井和夫	拉堡村村民	曲么歪聪	1
31	2年度	2010年12月11日							11
32	3年度	2011年4月28日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		19
33	3年度	2011年5月3日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		15
34	3年度	2011年5月19日	宁南县拉堡村	种猪引进前培训会	宁南县畜牧局	罗方宪	拉堡村村民	曲么留日、伙补三也、田友且、赵俄初、唐友初、杨洪贵、赵使聪、蔡贵发、毛欧且、陈吉黑、黄伍子、伙补欧虫	12
35	3年度	2011/5/25	美姑县洛觉村	美姑山羊日常饲养管理培训	美姑县畜牧局	吉吉尔勒	洛觉村村民	沈尔子古、沈尔拉古、沈尔曲前、沈尔黑石、曲比拉石、沈尔阿机、沈尔以古、沈尔阿子、曲比拳者、沈尔以洛、俄其拉石、俄其作前、沈尔克古、曲比子举、沈尔拉批、沈尔阿培、沈尔布都门、曲比尔布、俄其拉林、俄木石铁、曲比尔普、曲比木日、俄木以古、俄木惹达、曲比拉石、曲比木曲、曲比克惹、曲比拉度、曲比拉主、俄其曲莫、阿都丁丁、俄木石都、俄比曲呷、俄比拉夫、俄其尔布、俄木石达、布子牛牛、俄比曲前	37

36	3年度	2011/6/23	宁南县拉堡村	参观学习科学养猪	俱乐养殖厂	苏远华	拉堡村村民	曲么留日、伙补三也、田友且、赵俄初、唐友初、杨洪贵、赵使聪、蔡贵发、毛欧且、陈吉黑、黄伍子、伙补欧虫	12
37	3年度	2011年6月27日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		26
38	3年度	2011年6月28日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		13
39	3年度	2011/8/14	西昌市西溪乡蔬菜基地	蔬菜的科学栽培和联合销售	西昌益康果蔬协会	李王华	洛觉村组干部及村民 拉堡村组干部及村民	刘建华（合姑洛乡副乡长）、拾乙曲体、曲比牛牛、沈尔杨惹、阿作石布、俄其作格、沈尔阿子、曲比拉日、曲比拉史、俄比曲前、吉拿以服、张国约、吉吉石前、吉吉为前、吉吉曲依、杨正友（副乡长）、曲么五日、曲么拉曲、曲么你初、李云、李拉嘿、唐友初、赵则初、赵使聪、蔡贵发、杨子作、蔡以呷、阿鲁友日、田左嘿、安子黑	30
40	3年度	2011/8/15	西昌市川兴桉树基地 盐源县棉垭乡核桃基地	建材林大规模种植、核桃种植	西昌川兴桉树基地 盐源县核桃协会	罗洪 胡聪林	洛觉村组干部及村民 拉堡村组干部及村民	刘建华（合姑洛乡副乡长）、拾乙曲体、曲比牛牛、沈尔杨惹、阿作石布、俄其作格、沈尔阿子、曲比拉日、曲比拉史、俄比曲前、吉拿以服、张国约、吉吉石前、吉吉为前、吉吉曲依、杨正友（副乡长）、曲么五日、曲么拉曲、曲么你初、李云、李拉嘿、唐友初、赵则初、赵使聪、蔡贵发、杨子作、蔡以呷、阿鲁友日、田左嘿、安子黑	30
41	3年度	2011/8/30	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		
42	3年度	2011/9/5	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		
43	3年度	2011/9/23	宁南县倮格乡政府	嫁接核桃栽种技术培训	日方项目组 宁南县林业局	黄胜泽、刘顺云	拉堡村村组干部代表	曲么伍日、杨此嘿、唐友初、赵使聪、田左嘿	5
44	3年度	2011/10/6	美姑县洛觉村	用材林造林技术指导	日方项目组 美姑县林业局	黄胜泽、海来鲁也	洛觉村村民		12
45	3年度	2011/10/10	宁南县拉堡村	青花椒栽种技术培训	日方项目组 宁南县林业局	黄胜泽、刘顺云	拉堡村村组干部代表	曲么伍日、杨此嘿、唐友初、赵使聪、田左嘿	5
46	3年度	2011/11/10	宁南县拉堡村	核桃育苗技术培训	日方项目组 宁南县林业局	黄胜泽、刘顺云	拉堡村核桃育苗示范户	曲么里聪、唐友初、蔡友国、鲁友日	4
47	3年度	2011年11月16日	美姑县洛觉村	年末项目评价研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村干部村民		27
48	3年度	2011年11月19日	宁南县拉堡村	年末项目评价研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村干部村民		39
51	4年度	2012/2/10	宁南县拉堡村	核桃嫁接技术培训	盐源县核桃协会 宁南县科技局 宁南县林业局	刘德顺、刘顺云	倮格乡村民	蒋文振、蒋涛、吴贤友、曹选、杨正友、蔡吉聪、唐你发、蔡小龙、赵子发、蔡晓华、胡发兴、刘伍国、刘德顺、韩沙也、韩优森、安子农、安色日、安照发、杨子曲、卢小发、布明亮、布明荣、胡文学、王明亮、尼日子发、田友拉、蔡科日、马子呷、且沙色发、阿升色吉、任宋华、夏德顺、乃古日嘿、赵子发、杨子你、唐友初、蔡贵发	38
52	4年度	2012年3月30日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部	海来鲁也、阿尔阿布、俄木史里、曲比以能、俄比曲前、曲比拉日、曲比牛牛、吉拉以福、曲比俄洛、曲比格哈	10
53	4年度	2012年4月1日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部	曲么你初、赵子发、蔡贵发、曲么医牛、杨子作、窝底以刚、曲么伍勒、赵伍且、蔡吉聪、杨正友、余河、刘顺云、罗方宪、全玉忠、吴贤友、陈进云	16

54	4年度	2012年4月17日	美姑县县城	参与式开发项目培训会	北京社科院	徐鲜梅	州、县各部门、乡村代表	张立、瓦西石明、吴开军、吉拉维石、邓勇、曲比牛牛、沈尔扬日、且沙莫阿依、杨英、杨久明、张君文、吉木石者、吉觉尔者、吉机伍各、马海拉吉、吉克布吉、张国珍、甲斯马麻、海来鲁也、张军、索铁阿洛、陈晓辉、吴利文、杨宏坤、杨开文、沙马尔所、阿尔阿布、瓦西都新	28
55	4年度	2012年4月20日	宁南县县城	参与式开发项目培训会	北京社科院	徐鲜梅	州、县各部门、乡村代表	胡映、蒋文振、张明华、陈衣松、谢宝超、秦伟、杨首勇、罗方宪、刘钦春、郑旭、李芳、李应帆、奚业、张春华、蔡贵发、曲么伍日、何龙洲、杨辉光、蔡吉聪、吴俊、张显举、王宁远、羊建旗、杨友慧、曹选、肖克智、袁勇、赵友福、李涛、刘顺云、蒲红志、吴贤友、史睿、蒋涛、钟明华、谢莉、乐享强	37
56	4年度	2012/5/15	美姑县洛觉村	改良炉灶制作研修会	日方项目组	须藤 晃 前年度参加农户	洛觉村村民	沈尔惹克、沈尔哈古、曲比木洛、曲比衣莫、沈尔以洛、吉拉子伍、曲比拉都、俄其拉里、曲比尔体、曲比木前、阿都曲体、曲比石前、曲比拉日、曲比拉曲、曲比布惹、曲比衣坡、井子阿体、阿西呷尔、曲比叉所、贾巴石布、曲比达莫、阿作拉莫、曲比拉格、曲比里格、吉吉布哈、吉吉为机、吉吉解放、曲比阿尔	28
57	4年度	2012年5月30日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	州县科技局 洛觉村村民	陈晓辉、吴利文、胡光亚、曲比牛牛、沈尔扬惹、吉吉为且、曲比拉惹、俄木石布、俄其作给、吉拿以服、曲比洛各惹、俄木史里、曲比石布、吉吉马曲、曲比子体、张国志、乌尔书一、吉巴服一、曲比子夫、曲比木伍	20
58	4年度	2012年6月8日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	州县科技局 拉堡村村民	胡光亚、罗方宪、曹选、余河、蔡吉聪、蔡贵发、俄底尔日、曲么伍日、窝底以刚、曲么史云、杨子作、赵伍且	12
59	4年度	2012年7月17日	美姑县洛觉村	牧草栽培管理培训会	州畜科所	王同军	洛觉村村民	俄其尔布、曲比拉给、曲比达果、曲比拉日、俄比曲前、俄比马史、吉拿以服、张国约、曲比以能、曲比拉曲、曲比为机、曲比打各、俄其作给、沈尔以古、沈尔拉批、吉吉为机、吉吉为且、吉吉格布、吉吉为曲、俄其古林、曲比牛牛、曲比木曲、曲比拉日、吉吉石古、约其达果、曲比阿古、曲比拉惹、曲比尔洛、曲比石前、吉巴拉莫、俄比曲达	32
60	4年度	2012年7月31日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		8
61	4年度	2012年8月2日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部	刘顺云、蔡吉聪、曲么伍日、杨子作、唐友聪、赵子发	6
62	4年度	2012年9月21日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部	陈晓辉、俄木史里、吉克吉里、吉吉沙果、俄比曲前、吉吉为且	6
63	4年度	2012年9月26日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部	刘顺云、蔡吉聪、曲么伍日、杨子作、唐友聪、赵子发	6

64	4年度	2012年10月12日-14日	美姑县洛觉村6、7组	水管安装技术培训会	美姑县水务局	石一格夫沙马瓦各	洛觉村村民	吉吉曲以、吉吉尔服、吉吉尔哥、吉吉乃且、吉吉克惹、吉吉曲体、吉吉石达、吉吉麻麻、吉吉为机、吉吉木石、吉吉以洛、吉吉木惹、吉吉解放、吉吉依布、吉吉阿且、吉吉衣古、吉吉依服、曲比阿尔、曲比阿服、曲比尔服、吉吉木洛、吉吉木达、曲比勒石、吉吉古作、吉吉解放、阿作尔格、吉后伟曲、吉吉医生、吉吉节布、吉吉木布、吉吉拉夫、吉吉布哈、曲比依洛、吉吉拉机、吉吉石局、吉后门勒、俄木石里、吉吉石古、吉后伟古、吉吉达果、阿作会计、吉吉石伍、乡政府代表、乡中心小学校代表、乡卫生院代表	45
65	4年度	2012年10月15日-28日	美姑县洛觉村6、7组	水池修建技术培训会	美姑县水务局	石一格夫沙马瓦各	洛觉村村民	吉吉曲以、吉吉尔服、吉吉尔哥、吉吉乃且、吉吉克惹、吉吉曲体、吉吉石达、吉吉麻麻、吉吉为机、吉吉木石、吉吉以洛、吉吉木惹、吉吉解放、吉吉依布、吉吉阿且、吉吉衣古、吉吉依服、曲比阿尔、曲比阿服、曲比尔服、吉吉木洛、吉吉木达、曲比勒石、吉吉古作、吉吉解放、阿作尔格、吉后伟曲、吉吉医生、吉吉节布、吉吉木布、吉吉拉夫、吉吉布哈、曲比依洛、吉吉拉机、吉吉石局、吉后门勒、俄木石里、吉吉石古、吉后伟古、吉吉达果、阿作会计、吉吉石伍、乡政府代表、乡中心小学校代表、乡卫生院代表	45
66	4年度	2012年10月16日	宁南县拉堡村	母猪饲养管理培训会	宁南县畜牧局	罗方宪 周朝梅	洛觉村村民 村组干部	杨此牛、曲么伍鬼、曲么子日、曲么欧拉、曲么牛日、曲么伍日、陈杰、赵子发、安子也、安小东、曲么史云、安兴友、赵聪哈、赵鲁黑、陈拉作、赵依聪、蔡永贵、杨友日、鲁友日、杨子作、毛鲁作、蔡宝发、田拉聪、田子哈、哈马依发、唐友初、唐以重、唐拉也、唐也拉、唐鲁也、田沙以	31
67	4年度	2012年10月30日	美姑县合姑洛乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村干部村民	拾乙右立、俄其友其、拾乙克切、拾乙馬曲、瓦石呷工、吉吉相也、阿西偉体、吉吉達体、石衣達尔、吉吉衣右、吉拿弟弟、達則為石、吉克勒莫、曲比拉日、達則拉組、吉吉果果、吉吉加加、勒則曲体、洛哈説布、俄其拉也、阿作拉培、比子阿夫、俄木石青、俄其拉力、曲比黑答、拾乙曲鉄、張国珍、吉色伍呷、吉莫尔葉、吳加勇、吉吉不古、吉拿以服、阿作石布、俄其尔布、瀋尔揚日	35
68	4年度	2012年10月30日	宁南县倮格乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村干部村民	蔡吉聪、俄底尔日、蔡鲁発、華偉、李聪嘿、蔡貴発、趙子発、曲么伍日、蔡保発、曲么医発、田拉曲、窩底以則、吉尔丁日、唐友初、蔡依発、陳子日、韓德森、王志発、布明雲、韓長毛、肖也発、馬拉日	22
69	4年度	2012年11月10日-13日	美姑县洛觉村3组	水管安装及水池修建技术培训会	美姑县水务局	石一格夫古池张哥	洛觉村村民	沈尔克日、沈尔衣服、俄其曲莫、阿都曲体、俄比马里、阿都弟弟、俄木石都、俄木石达、俄木石布、俄比曲呷、俄比马石、俄比马子、俄比呷底、俄比曲前、俄其尔布、吉吉阿来、俄比拉夫	17
70	4年度	2012年12月3日	美姑县洛觉村	年末项目评价研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村干部村民	吉吉阿且、曲比尔夫、吉记以洛、曲比尔石、吉吉木达、阿作尔格、俄木史里、吉吉部哈、曲比木洛、曲比拉日、沈尔勒石、俄其作格、曲比拉伙、张国志、吉拉以福、俄比曲前、俄其尔布、贾巴夫一、吉吉石古、俄比马子、沈尔日洛、曲比局者	22

71	4年度	2012年12月6日	宁南县拉堡村	年末项目评价研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村干部村民	赵子发、赵伍且、蔡长毛、曲么子黑、安小东、赵子发、乃堡参日、吉尔初哈、曲么史云、杨友日、赵鲁黑、曲么医牛、唐以呷、伙补三也、曲么子日、苏雨沙、周大洪、赵拉日、肖你发、毛鲁宗、陈子呷、俄地依呷、吉日日曲、海友红	20
72	4年度	2012年12月10日—12日	攀枝花市米易县	温室大棚栽培、核桃种植、养猪等技术参观学习	日方项目组	黄胜泽	倮格乡拉堡村	俄低尔日、陈静、赵则初、俄杂、唐色也、唐友初、曲么子也、赵子发、赵依初、阿鲁子曲、唐色也、石强、蔡贵发、阿鲁友日、蔡友贵、伍留吉、陈文、安此嘿、赵子初	19
73	5年度	2013/4/23	美姑县佐戈依达乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		28
74	5年度	2013/4/24	美姑县牛牛坝乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		27
75	5年度	2013/4/25	美姑县典补乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		30
76	5年度	2013/4/26	美姑县巴普镇	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		20
77	5年度	2013/5/1	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		16
78	5年度	2013/5/6	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		12
79	5年度	2013/5/8	宁南县西瑶乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		29
80	5年度	2013/5/9	宁南县六铁乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		28
81	5年度	2013/5/11	宁南县杉树乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		31
82	5年度	2013/5/12	宁南县稻谷乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		30
83	5年度	2013/5/13	宁南县海子乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		42
84	5年度	2013/6/4	宁南县幸福乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		39
85	5年度	2013/6/5	宁南县新村乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		36
86	5年度	2013/6/6	宁南县景星乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		30
87	5年度	2013/6/17	美姑县俄曲古乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		32
88	5年度	2013/6/18	美姑县龙门乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		29
89	5年度	2013/6/19	美姑县觉洛乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		26
90	5年度	2013/6/21	美姑县农作乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		23
91	5年度	2013/6/20	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		9
92	5年度	2013/6/24	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		11

Project Design Matrix（PDM：日本語版）

2013年9月22日

プロジェクト名： 中華人民共和国涼山州金沙江流域生態環境保全総合開発モデルプロジェクト
協力期間：2009年6月～2014年3月（5年間）
対象地域：四川省涼山州にある5村（①寧南県倮格卿拉堡村、②美姑県合姑洛郷洛覚村、③会東県大崇卿半山村、④布拖県地洛卿地洛村、⑤金陽県馬依足卿馬依足村）
ターゲットグループ：涼山州、対象県及び郷鎮の行政スタッフ・農業普及員、並びに対象村の村民

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
上位目標 1. 涼山州金沙江流域の土水流失の多い丘陵地帯で生態環境が維持・改善される。	1-1. 事業モデルが涼山州金沙江流域に普及される（普及された県や村の数とその実践内容および生態環境の維持・改善状況）:90村	- 統計資料・データ - インタビュー調査	
プロジェクト目標 1. プロジェクト活動対象2村における実証を通じて、住民参加型手法による生態環境の保全と、農業生産性の向上を備えた農業農村開発（栽培技術の向上、集約作物の導入等）にかかる、持続可能な発展のための事業モデルを形成するとともに、活動対象2県内において事業モデルが紹介される。	1-1. プロジェクトのパイロット実証事業に参加した2県（2村）における住民のうち彼らの生産・生活条件及び対象地域の生態環境が改善したと認識している住民の比率：70% 1-2. 事業モデルを拡大、継続するための予算が関係する行政機関に確保され、必要な連携が行政機関間で図られる 1-3. 活動対象県内（2県）で事業モデルが紹介・普及された村の数とその実践内容：40村	- 対象地域におけるベースライン調査報告書 - プロジェクト終了時評価報告書 - インタビュー調査	- 深刻な自然災害が発生しない - 退耕環林政策が推進される
成果 1. 協力対象県（5県（5村））の関係者（州、県、郷鎮及び村レベル機関行政スタッフ及び農民）が参加型で農村開発を行う能力が向上する。	1-1. 定例会議の開催（実施回数32回以上、参加人数500人以上）と決定事項の内容 1-2. 研修（実施回数40回以上、参加人数700人以上）及び内容	- プロジェクトにより作成された資料、データ、及び報告書 - 定例会議議事録	- 中国側C/P機関に本質的な変化がない - 州及び県政府の事業予算が確保される
2. 生態環境と調和した農業の持続性向上と農民生活の改善を図る事業モデルが確立する。	2-1. 実施された資源調査（数、内容） 2-2. 策定された農村振興に係る活動計画（数、内容） 2-3. パイロット活動の成果（活動項目数、参加者数） 2-4. 実施されたモニタリング及び評価の内容	- プロジェクトにより作成された資料、データ、及び報告書 - パイロット活動報告書	
3. 協力事業対象県内（5県）へ事業モデル紹介・普及する仕組を構築する。	3-1. 作成された普及計画の内容 3-2. 作成されたマニュアル及び教材の数、内容、その活用状況 3-3. 研修等（実施回数20回以上、参加人数500人以上）及び内容	- プロジェクトにより作成された資料、データ、及び報告書 - 事業モデル普及計画書 - 研修マニュアル及び教材	
活動 1-1. 関係機関による責任体制を明確化し、事業実施のための連携、調整をおこなう 1-2. プロジェクトの関係者の能力及び知識向上のための住民参加型農村開発にかかる研修を実施する 2-1. 農村の資源調査（土地利用、自然、社会経済、市場に関する情報）を行う 2-2. 住民参加型手法を活用し、生態環境保全に配慮した農村振興に係る活動計画（流域土地利用・保全計画／農業振興計画／農村生活環境改善計画）を策定する 2-3. 活動計画に基づき、モデル農家を選定する 2-4. モデル農家においてパイロット活動（①生態環境保全に配慮した農業生産性向上に係る活動、②生態環境保全に配慮した農民の生活改善に係る運動）を実施する 2-5. パイロット活動のモニタリングと評価を行い、結果を取りまとめて事業モデルとして確立する 3-1. 事業モデルの普及計画を作成する 3-2. 事業モデル普及のためのマニュアル及び教材を作成する 3-3. 事業モデルの紹介・普及を目的とした研修等を開催する（行政スタッフ、技術普及員、農民リーダー対象）	**投入** 日本側 1. 専門家派遣 - 総括／農村開発、生活改善／生計向上、農業技術 - 生活改善／生計向上 - 農業技術／生産性向上 - 土地利用計画／土壌保全 - 畜産振興 - 植林／造成／草地管理 - 農村社会経済／事業評価 - 業務調整／プロジェクト管理 2. 現地国内研修及び本邦研修 3. 必要機材 −車輌 −事務設備 −その他必要と判断される機材	中国側 1. プロジェクトカウンターパート 州、県、郷鎮／村レベルにおいて必要人数の配 2. プロジェクト合同調整委員会の設置 3. 技術支援機関の設置 4. 設備／施設 −専門家執務室 −郷鎮／村レベルでの活動に係る活動場所 5. プロジェクト運営経費及び活動経費 −研修経費の一部 −カウンターパートに係る旅費 − 村レベルパイロット活動の実施に必要な経費の一部 − その他パイロット活動の実施に必要な経費の一部 6. 活用できる現地中国人専門家	- プロジェクトに対して対象地域の郷鎮並びに農民の協力が確保される - カウンターパートの大きな離職、変動がない **前提条件** - 涼山州政府、対象県及び郷鎮政府関係者が本プロジェクトを十分理解し全面的な協力を行う - 中国政府の貧困対策及び流域管理保全に係る政策に変更がない

中華人民共和国

四川省涼山州金沙江流域生態環境保全総合開発モデルプロジェクト

終了時評価調査に係る協議議事録

中華人民共和国「四川省涼山州金沙江流域生態環境保全総合開発モデルプロジェクト」（以下「プロジェクト」とする）は、2009年3月26日に日本と中華人民共和国との間で署名された討議議事録（R/D）に基づき、2009年の6月より5年間の予定で開始された。

2014年3月にプロジェクトが終了を迎えたことから、独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」とする）は、プロジェクトに関し、技術協力の実施状況の確認目的としてJICA中国事務所魚屋将次長を団長とする終了時評価調査団を派遣し、四川省涼山州科学技術局の周大海局長を団長とする中華人民共和国調査団と日中双方関係者から構成される合同評価調査団を結成した。

合同評価調査団は2013年9月10日から9月22日にかけて日中両国関係者からの聞き取りや現場調査を行い、その結果、ここに添付する終了時評価報告書に記載する諸事項について合意した。

本協議議事録は等しく正分である日本語及び中国語による各2通を作成し、双方の合意のもとに署名した。

涼山州西昌市

2013年9月22日

魚屋　将

日本国　独立行政法人国際協力機構

中華人民共和国事務所　次長

終了時評価団日本国側団長

周　大海

涼山州科学技術局　局長

終了時評価調査団中国側団長

合同評価調査団は2013年9月10日から9月22日にかけて日中両国関係者からの聞き取りや現場調査を行い、その結果、ここに添付する終了時評価報告書に記載する諸事項について合意した。

協議事項

PDMの修正

今次評価結果に基づき、日中双方が検討した結果、上位目標の指標を現実的な規模にすべきとの結論に至った。このため、PDMの上位目標の指標を以下の通り修正することで日中は合意した。

修正前：１８０村

修正案：９０村

別添：終了時調査報告書

「四川省涼山州金沙江流域生態環境保全総合開発モデルプロジェクト」

終了時評価調査報告書

2013 年 9 月

独立行政法人　国際協力機構

中華人民共和国事務所

１．背景

中華人民共和国（以下「中国」という）四川省凉山州（位置：東経 100° 15′ ～103° 53′ 北緯 26° 03′ ～29° 27′ ／面積：60114 ㎢／総人口：424.32 万人）は長江の上流域に位置し、中国で最大の彝族（以下「イ族」という）居住地で貧困少数民族地区のひとつであり、17 市県のうち 11 県が国家指定の重点貧困県である。食料は馬鈴薯や燕麦等の穀物の生産を主としているが、頻発する自然災害の影響で食糧不足も起きている。

他方、長江上流に位置する金沙江流域は、土砂流出が大きな問題となっている。これは同流域の地理的特徴（地表の起伏が大きく山々が険峻で、岩層は破砕しやすいため、集中降雨によって土壌浸食・流出が発生しやすい）とかつての大躍進政策によって山林のほとんどが乱伐され森林が消滅して荒廃裸地となっていることが一因となっている。

1998 年に発生した長江大洪水を契機として、同年 11 月の江沢民国家主席（当時）訪日時の日中首脳会談において、この土砂流出を防止するための植林分野の協力促進について合意がなされ、2000 年 5 月に「中国四川省安寧河流域造林計画調査」、2000 年 7 月から 2007 年 10 月に「四川省森林造成モデル計画プロジェクト」が並行して開始され、その結果、森林造成技術については中国側へ移転され、当該地域の森林保全活動において一部その成果が出始めている。

しかし、土砂流出により農地をなくした農民が耕地確保のため更に傾斜の激しい山肌を乱墾し、粗放な耕作が更に土砂流出を引き起こすという悪循環により土砂流出も依然として続いている。中国政府は、90 年代から退耕環林（農地から森林への転換）や移民扶貧（貧困地区からの移住）事業によって過開墾地からの住民移転を進めているが、地域によってはあまり効果が上がっていない。

このような背景から、中国政府は 2007 年に終了した「四川省森林造成モデル計画プロジェクト」の成果を活用して四川省安寧河流域全体に森林造成事業を拡大して行くこと、併せて土壌流出による耕地減少を抑えて農民の生計手段を保障し、農民による過開墾や森林乱伐を抑えて森林の回復を図るべく、耕地の基盤整備、生態圏の回復、農民に対する実用的な農業技術の研修等を内容とした総合農村貧困対策に係る技術協力プロジェクトを我が国に対して要請した。

この要請に基づき、2008 年に 6 月に事前評価調査団を派遣し、中国四川省涼山州関係者との協議及び現地調査を通じて日本側が協力可能な基本計画（案）を取りまとめ、同州側との間で合意した。日中双方は 2009 年 3 月 26 日に本プロジェクトの RD にサインし、6 月から専門家を派遣し活動を開始した。

プロジェクトでは活動計画に沿って農村資源調査等を行い、村民大会を開き、各村での実際の活動内容を定め、農業、林業、畜産、生活環境改善等の各面でパイロットプロジェクトを実施し、ある程度の成果を出している。

プロジェクトの実施の中で、限られた予算を効率的、効果的に活用し、プロジェクトの目標を達成するため、3 年次からプロジェクトの対象地域を美姑県、寧南県 2 県に絞込み、集中的に専門家を投入し、元の会東県、布拖県、金陽県でのプロジェクト活動を取消すこととした。中国側の要望により、訪日研修に関しては 5 件を対象とすることにし、ＰＤＭでは対象を 5 県のままにした。

プロジェクト活動の開始から５年目に入り終了を迎えた段階で、プロジェクトの成果を確認し、プロジェクト目標の達成状況や効率性、妥当性などを評価することにより、プロジェクト終了時までに既定の目標を達成し、終了後に上位目標を達成できるため、終了時評価を実施する。

２．調査の目的

本調査は、「四川省涼山州金沙江流域生態環境保全総合開発モデルプロジェクト」の終了時段階で本プロジェクトの活動状況や運営状況について調査し、プロジェクト目標の達成状況を把握するとともに収集したデータを分析し、プロジェクト実績の貢献・阻害要因を抽出した上で効率性や妥当性など評価５項目について評価を行い、合同評価調査報告書を作成するとともに、同評価の結果から先方政府関連機関との間で 2014 年 3 月のプロジェクトの終了に向けた活動（PDM を含む）について提言をすることを目的とする。さらに、同提言は合同調整委員会において日中間で協議し、M/M の署名・交換を行う。

３．調査方法、日程

3－１調査方法

（１）評価はＰＣＭ手法に基づき、以下の流れで、評価５項目（有効性（目標達成度）、インパクト、効率性、妥当性、自立発展性）について評価を行う。

①プロジェクトの実績の確認

2013 年 4 月に改定された PDM に基づいて、プロジェクトの投入、活動、成果を確認し、併せて、各活動の実施に当たっての問題点と対処案を検討する。

②評価

確認された実績に関して、以下の５項目の観点から評価・分析を行う。

妥　当　性:プロジェクトの目指している効果(プロジェクト目標や上位目標)の援助プロジェクトとしての正当性・必要性を問う視点。

有　効　性：プロジェクトの実施により、目標がどれだけ達成され、本当に受益者もしくは社会への便益がもたらされているのか（あるいはもたらされるのか）を問う視点。

効　率　性：主にプロジェクトのコストおよび効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているか（あるいはされるか）を問う視点。

インパクト：プロジェクト実施によりもたらされる、より長期的、間接的効果や波及効果、特に予期していなかった正・負の効果・影響を見る視点。

自立発展性：援助が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続しているか（あるいは持続の見込みはあるか）を問う視点。

結　　論：５項目における評価の結果を総合的に判断する。

③教訓・提言

（2） 日中双方の評価調査団を結成し、合同評価調査を実施する。評価者は JICA が組織する終了時評価調査団（JICA、評価コンサルタント等により構成）―日本側、涼山州人民政府及び涼山州科技局のプロジェクト責任者―中国側、とする。

3－2 団員構成、及び調査日程

(1) 団員構成

（日本側）　※現地で通訳を傭上する

	氏名	担当分野	所属・役職
1	魚屋　将	総　括	JICA 中華人民共和国事務所　次長
2	十津川　淳	評価分析	佐野総合企画株式会社
3	林　哲浩	協力計画	JICA 中国事務所　所員
4	徐　潔	通訳	北京大来創傑コンサル有限公司

（中国側）

	氏名	担当分野	所属・役職
1	周　大海	総括	涼山州科技局　局長
2	王　会蓮	副総括	涼山州科技局　副局長
3	譚　平	協力計画	涼山州科技局　農村科　科長
4	馬　鋼		涼山州科技局　職員

(2) 調査日程

2013年9月10日（火）～9月24日（火）

日順	月日	曜日	時間	調査行程		宿泊
1	9 月 10 日	火	全日	成田⇒北京　JICA 中国事務所打ち合わせ		北京
2	9 月 11 日	水	全日	北京－成都－西昌		西昌
3	9 月 12 日	木	全日	涼山州政府関連部門関係者のヒアリング		西昌
4	9 月 13 日	金	全日	西昌－寧南県　県関係者のヒアリング		寧南
5	9 月 14 日	土	全日	寧南県モデル村での調査		寧南
6	9 月 15 日	日	全日	寧南－西昌	林団員西昌入り	西昌
7	9 月 16 日	月	全日	西昌－美姑県　県関係者のヒアリング		美姑
8	9 月 17 日	火	全日	美姑県モデル村での調査		美姑
9	9 月 18 日	水	全日	美姑－西昌　団内打合せ		西昌
10	9 月 19 日	木	全日	合同評価報告書整理		西昌
11	9 月 20 日	金	全日	合同評価報告書整理	魚屋団長西昌入り	西昌
12	9 月 21 日	土	全日	団内打ち合わせ、合同評価報告書整理		西昌
13	9 月 22 日	日	全日	日中評価調査団による合同評価報告書についての協議		西昌

14	9月23日	月	全日	日中評価調査団による合同評価報告書についての協議 西昌ー成都ー北京	北京
15	9月24日	火	全日	北京ー東京	

4. プロジェクトの現状

4-1 投入実績

添付資料1のとおりである。

4-2 プロジェクト目標および成果の達成状況

4. 2 実施プロセス

（1）コミュニケーション

関係者間（日本人専門家チームー州ー県ー郷ー村）のコミュニケーションは、プロジェクト開始初年度および次年度には、希薄になっていた時期も見られたが、3年次に当たる2011年度からは、州、県のプロジェクト弁公室（＝科学技術局）を中心にして情報交換もなされており、徐々に改善してきたと評価できる。また、下記に示すとおり隔月のモニタリング・ワークショップ開催やニュースレターの発行を通じて、州、県、郷、村等の関係者間での情報共有にかかる努力もなされてきた。

このように全般的にプロジェクト期間を通じて、コミュニケーションは徐々に円滑になっていったと言えるが、しかしながら最後まで専門家チームと州・県政府の間では其々必要な情報が折々で得られず、改善を求める意見が最後まで聞かれた。例えば、中国側はJCCをはじめとした各種会議の場で、今後のプロジェクト活動の方向性こそ把握できるものの、活動にかかる投入規模や裨益規模が分からないことに情報不足を感じていた。一方、日本側専門家チームも、プロジェクト対象地域において展開される政府事業の予定を把握出来ないといった問題に直面した。例えば、相反する政府主導型のアプローチを採用する事業がプロジェクト対象地域で専門家チームの知らぬ間に開始され、プロジェクト活動に参加する農民が両事業の板挟みに合うといった事態も見られた（政府事業の全量買い取りといった条件に興味を示し、プロジェクト活動への参加モチベーションを低下させる事態が一部で見られた～美姑県洛覚村のジャガイモ生産活動の例）。

また、プロジェクト開始当初に遡れば、RD締結時からプロジェクト開始に至るまでの日中双方のコミュニケーションが不足していたことも指摘される。中国側は要請書に求めていたプロジェクトの予算規模が了承されたか否か不明瞭なままプロジェクトが開始されてしまい、プロジェクトを預かるカウンターパート機関として不安を感じていたことを今般終了時評価で表明している。

また、プロジェクトが目指していた参加型アプローチの根本理念を日中双方が十分に相互理解して活動を進めてきたとは言えない面も、今般調査では明らかとなった。参加型アプローチに関する共通理解を進めることが、いわば本プロジェクト目標の根本的なひとつの課題でもあったことに鑑みると、日中双方で「参加型とは」といった根本的な課題に関するコミュニケーションの頻度および質にも改善の余地があったと考えられる。

（2）モニタリング体制および実施状況

モニタリングについては、概ね十分な体制が敷かれている。

村落での活動進捗については、隔月でモニタリング・ワークショップが実施されており、パイロット村の住民、県、郷の関係者などによって、活動実績の確認と今後の計画および課題について情報共有がなされている。また、あわせてワークショップの結果などを含めて、ニュースレターも作成、配布されており、関係者間への情報発信とフィードバックを兼ねた効果を発揮している。

5. 評価5項目による評価結果

5. 1 妥当性

（1）中国政府の政策・開発計画との整合性

中国政府は、農村貧困対策として農村扶貧開発要綱（2001年-2010年）や社会主義新農村建設を重要施策として打ち出し、全国規模での取り組みをこれまで進めてきた。

また、第12次5カ年計画（2011-2015年）では、「農村の生産・生活条件の改善（第7章）」を掲げ、新農村建設を更に押し進めるとともに、「農地保護や生態系涵養などの空間配置を定め、農村の生産・生活のインフラ、公益事業を統一的に企画する」ことを謳っている。さらに、同計画「西部大開発の新ラウンド推進（第18章）」においても、西部地域の生態環境保護を進めながら、経済成長を促進することが謳われている。

以上の点から、本プロジェクトが包含する活動および目標は、中国政府の開発政策の方針に合致していると判断できる。

（2）日本国政府の支援政策との整合性

日本の対中国経済協力計画は、重点支援分野として「環境など地球的規模の問題に対処するための協力」を掲げており、具体的に「生態系の維持・回復には、水資源の管理や森林の保全・造成が重要であることを踏まえ、同分野での協力に努める」としている。

また、対中国事業展開計画においても、「健全な社会発展の実現」を開発課題として掲げ、「都市・農村の格差是正に向けた取り組みを支援する」こととしている。

以上の点から、金沙江流域の生態保全と都市・農村の格差是正貧困緩和に資する本プロジェクトは、日本の援助計画に整合している。

（3）ニーズとの整合性

(3) -1　地域のニーズ

プロジェクト対象地域の金沙江流域では土壌流出による農業および生態環境への被害が深刻な問題となっており、2005年当時で水土流失面積は州内流域面積の49%を占め、年間土砂流失量は約1.2億トン、長江流域における流出量の20分の1を占めるに至っていた。

他方、地域の生活レベルについては、平均収入が比較的に低く、中国政府の貧困対策重点地域に指定されている地域が数多く点在していた。

以上の点から、地域の土壌流出を防止し、かつ貧困削減に資する本プロジェクトは対象

地域のニーズに整合しているものと判断できる。

(3) -2　アプローチの適切性

本プロジェクトは「参加型」アプローチを採用している。これまでの活動を通して、日中関係者双方で「参加型」にかかる共通理解は徐々に深まってきたが、しかしながら、終了時評価時点の現在に至るまで、「参加型」アプローチにかかる根本的な認識には差異が見られる。今後、「事業モデル」の共通認識を深める過程と並行して、参加型アプローチに関する両者間の共通理解を一層深める努力が必要である。

5.2 有効性

＊　本終了時評価においては、2013年4月15日に承認されたPDMに基づいて達成状況を検証した。

(1) 成果の達成度

成果1:　協力対象県（5県（5村））の関係者（州、県、郷鎮及び村レベル機関行政スタッフ及び農民）が参加型で農村開発を行う能力が向上する

（指標）

1-1　定例会議の開催（実施回数32回以上、参加人数500人以上）と決定事項の内容

1-2　研修（実施回数40回以上、参加人数700人以上）及び内容

成果1については「概ね達成した」と判断できる。

これまでの活動を通して、知識的側面における「参加型で農村開発を行う能力」は研修参加者などを中心に向上したと判断できる。また、県職員や郷、村レベルの幹部も村落での活動～日常的な技術指導や隔月モニタリング・評価ワークショップ等への参加を通して、実践的な能力も概ね習得したと言える。ただし、県職員や郷関係者の参加度合いは個々人で差異があったため、関係者全員が一様に能力向上～特に実践的な側面での能力向上を完全に果たしたとまでは言えない。そのため「概ね」達成とした。

なお、指標の観点における達成状況は以下のとおり。

指標項目	達成状況
1-1　定例会議の開催（実施回数32回以上、参加人数500人以上）と決定事項の内容	• 州レベル（省代表も参加）のJCC（毎年１回）の他、パイロット現場村でのモニタリング・ワークショップを２ヶ月に１度開催（実施回数は総計28回、参加人数は累計で357人）。 • 各年次の終了直前に現場村にてパイロット活動の住民参加型年次評価を実施（総計6回、参加人数162人）。
1-2　研修（実施回数40回以上、	• 参加型開発手法研修：①州科技局、県科技局、およ

参加人数700人以上）及び内容	び県レベル各部局の職員に対して1年次、4年次と2回にわたり座学研修を実施した；②実践研修として農村資源調査インタビューや各種参加型ツールについて研修を実施した。 • 参加型開発研修は計4回、出席人数108人。 • スタディツアー：パイロット村の農民が郷内および他県の先進地区への見学を実施した。 • スタディツアーは計3回、79人が参加。 • 5年次はスタディツアーが2回計画され30人の出席を予定。PDMでの指標（40回、700人）を達成見込み。

成果2：生態環境と調和した農業の持続性向上と農民生活の改善を図る事業モデルが確立する

（指標）

2-1　実施された資源調査（数、内容）

2-2　策定された農村振興に係る活動計画（数、内容）

2-3　パイロット活動の成果（活動項目数、参加者数）

2-4　実施されたモニタリング及び評価の内容

成果2はプロジェクト完了時までに達成する見込みが高い。

本プロジェクトでは寧南県および美姑県において、住民参加型アプローチを採用したパイロット活動を展開してきた。これらの経験をベースとして、成果2が示す「農業の持続性向上と農民生活の改善を図る」事業モデルの原型が既に形作られており、プロジェクト成果報告書等において説明が為されている。

ただし、これまで事業モデルの詳細・定義について、報告書でこそ一定の説明がなされているものの、日本側専門家チームと中国側の両者で十分といえるまでの議論を行なってはいない。今般の終了時評価においても、未だなお中国側からパイロット活動に疑義を示す点も一部あることから、プロジェクト完了時点までに改めて事業モデルの内容について両者間で協議、合意する必要がある。このプロセスを以て、本成果は最終的に達成されたものと判断するべきであろう。

なお、本プロジェクトが採用した参加型アプローチは、ベースライン調査、農村資源調査、農民集会、農民自らによる計画策定・評価・モニタリング等を実施しており、いわば参加型アプローチの基本的な枠組みを満遍なく網羅したものとなっている。一方で、中国側はこれらアプローチの有用性を認めながらも、参加型アプローチを中国の実情に即したものにする必要があるとの考え方を示している。特に、金額的な投入規模を事前に明示することや、そもそもの投入量を増加させること、モデル農家を足掛かりとして技術を普及する方法が有効であることなどを主張する声が多い。

そのため、今後はプロジェクト終了後の持続性を見据えながら、本プロジェクトの経験と中国側が考える中国流の参加型アプローチとの調整を経て、持続性の高い「事業モデル」を策定するべきである。

他方、これまでの二つのパイロット村における活動実績は下表のとおりである。表が示すとおり、1年次から多様な活動を展開してきたが、参加住民の反応や継続意思などに即しながら、3年次ごろより活動項目を集約させ始めた。これら活動のうち、住民の受容性が高く、かつ村落内での広がり、視認できる経済的・社会的効果が生まれたものとしては、寧南県の経済林造成、種豚の導入活動などが挙げられる。また、美姑県では美姑ヤギ、ジャガイモ生産（優良品種導入）、用材林造成、人畜分離、改良かまどなどの活動が挙げられる。

- 寧南県

分野	活動	実施年度	参加農家数	活動内容
1)農業	ジャガイモ優良品種導入	1年次（調査のみ）	3戸	4品種の種イモを配布、栽培指導
		2年次		収穫、テンプン含有量調査、食味調査
		3年次（技術指導のみ）	3戸	農家自身で栽培継続（日常管理、収穫指導）
		4年次（技術指導のみ）	3戸	農家自身で栽培継続（日常管理、収穫指導）
		5年次（技術指導のみ）	3戸	農家自身で栽培継続（日常管理、収穫指導）
	販売用野菜栽培	1年次（技術指導のみ）	5戸	展示用ビニールハウス1棟の設置と5戸への資材配布、技術指導
		2年次		モデル農家自身でのビニールハウス5棟設置の技術指導、トマト・トウガラシの栽培指導
		3年次（技術指導のみ）		専門家より技術指導のみ
		4年次（技術指導のみ）		農家自身で育苗、栽培を行い、専門家からは技術指導のみ
		5年次（技術指導のみ）	4戸	農家要望に応じての技術指導のみ継続中
2)畜産	畜舎改良	1年次（技術指導のみ）	19戸	改良点の指導
		2年次		資材(ブロック、スレート)配布、改良作業指導
		3年次		モニタリング

分野	活動	実施年度	参加農家数	活動内容
	乳製品デモ	1年次	20人	ヨーグルト、チーズの作成展示会
	サイレージのデモ	1年次	15人	冬期の餌確保のため地面に穴を彫りトウモロコシの葉を入れ密封、発酵する技術の展示会
	種豚導入	3年次	各組	12頭の種豚（ヨークシャー種、デュロック種6頭づつ）を導入して種付し品種改良を推進。
		4年次	40戸	50頭の雌豚（ランドレース、大ヨークシャー、デューロック、F1）を導入し品種改良。
		5年次（実施中）	5戸（種豚農家） 23戸（雌豚農家）	改良効果が良く、品種改良継続中 品種改良及び小豚のリボルビング実施中
3) 林業・土地利用	編柵工の設置と展示	1年次	不特定多数	条件調査のみ
		2年次		2箇所で設置、効果展示
	経済林造成	1年次	18戸	植林実施設計、8戸のクルミ植林
		2年次	22戸	クルミ、青山椒の植林
		3年次	183戸 ＋4戸	クルミ179戸、青山椒142戸の植林（完了）、4戸における育苗（クルミ、青山椒）の技術支援（11月より）
		4年次	125戸	クルミ125戸（済）
		5年次（実施中）	64戸	クルミ64戸（済）、日常管理実施中
4) 生活改善	衛生教育ビデオ	1年次	48人	1本の映画を撮影（「正しい病気の知識について」）、上映会実施
	太陽熱温水器	1年次（調査のみ）	21戸	（家屋の条件調査のみ）
		2年次	4戸	モデル農家へ試験的に4戸設置

- 美姑県

分野	活動	実施年度	参加農家数	活動内容
1) 農業	ジャガイモ優良品種導入	1年次（調査のみ）	21戸	４品種の種イモを配布、栽培指導
		2年次		収穫、テンプン含有量調査、食味調査、品種決定
		3年次	60戸	決定した品種（涼芋17号）をリボルビング方式

分野	活動	実施年度	参加農家数	活動内容
				で100kgずつ配布、8/31に１次農家全戸が返済完了し２次農家に配布済
		4年次	60戸	参加農家の返済の管理、栽培指導、リボルビング継続（3次農家返済）
		5年次（実施中）	60戸	3次農家栽培開始、日常管理指導。全村の参加農家をカバーした為現在ジャガイモ協会への返済実施中
	夏季野菜ビニールハウス栽培	1年次	5戸	展示用ビニールハウス1棟の設置と5戸への資材配布、技術指導
		2年次（技術指導のみ）		トマト、トウガラシの技術指導（栽培指導、ボカシ肥料作成展示）、トウガラシに集中する方針決定
		3年次（技術指導のみ）		技術指導のみ、農家自身でトウガラシ販売開始
		4年次（技術指導のみ	4戸	農家自身で育苗、栽培、専門家より技術指導のみ
		5年次（継続中）	3戸	農家要望による技術指導の継続中
	栄養改善のための野菜栽培	1年次	26戸	技術指導（栽培研修）のみ
		2年次		上記のビニールハウスを利用したキャベツ、白菜、ネギの栽培指導
		3年次	全農家	農家自身で栽培、普及、販売開始（主にキャベツ）
	トウモロコシ郷土品種育成	1年次（調査のみ）	17人	技術指導（育種目標の選定）のみ
		2年次		選定した品種の播種指導、優良個体の選定
		3年次（技術指導のみ）		技術指導のみ、農家自身で収穫し、品種改良の展示会も開催。
		4年次（技術指導のみ）	17戸	技術指導のみ、農家自身で収穫し、品種改良の展示会も開催。
		5年次（技術指導のみ）、（継続中）	17戸	技術指導のみ、農家の間で品種改良継続中
2)畜産	美姑ヤギのリボルビング方式による導入	1年次	20戸	メスヤギを20戸に2頭ずつ貸与、オスヤギ4頭を配布、種子配布（クローバー、黒麦草、トールフェスク）、メスヤギを配布する農家に畜舎の

分野	活動	実施年度	参加農家数	活動内容
				改良指導
		2年次（技術指導のみ）		経過観察と飼育指導、畜舎改良指導
		3年次	102戸	メスヤギを102戸に1頭ずつ貸与、オスヤギ7頭を配布、アルファルファ種子を12戸に配布
		4年次	102戸+22戸	昨年導入した102頭のうち、既に22戸に小山羊を引き渡し。
		5年次（実施中）	124戸+6戸	5年次に新たに6戸に小山羊を返済し、現在はまだリボルビングを継続中
	乳製品デモ	1年次	25人	ヨーグルト、チーズの作成展示会
	サイレージのデモ	1年次	10人	冬期の餌確保のため地面に穴を彫りトウモロコシの葉を入れ密封、発酵する技術の展示会
3) 林業・土地利用	水土流失試験の展示	1年次	63人	水土流失実験の展示と記録ビデオの上映会。
	経済林造成	1年次	20戸	植林実施設計
		2年次	19戸	クルミ、赤山椒の植林
		3年次	192戸	クルミ79戸（済）、赤山椒87戸（済）
		4年次	192戸	経済林の日常管理を実施した。
		5年次（継続中）	192戸	経済林の日常管理継続中。
	用材林造成	1年次	21戸	植栽実施設計
		2年次	32戸	カラマツ、ハンノキ、ポプラの植林
		3年次	192戸	カラマツ192戸（済）、ポプラ9戸（済）、ハンノキ189戸（済）、華山マツ（未定）
		4年次	50戸	カラマツ28戸（済）、ハンノキ34戸（済）。
		5年次（継続中）	192戸	用材林の日常管理を継続中。
4) 生活改善	改良カマド	1年次（調査のみ）	18戸	（意向・労働力調査のみ）
		2年次		製作指導会を2回開催して、モデル農家18戸で製作。
		3年次	103戸	4月（第1回）33戸に資材配布と製作指導、7月（第2回）35戸に配布して第1回農家が製作指導、

分野	活動	実施年度	参加農家数	活動内容
				9月（第3回）35戸に配布して第2回農家が製作指導、全参加農家がカマド製作を終了。
		4年次	28戸	参加農家のうちに21戸が改良カマドを製作。
		5年次（実施中）	7戸	昨年に未作成であった残りの7戸がまだ未作成。
	人畜分離	1年次（調査のみ）	39戸	資材配布と住居改造指導
		2年次	35戸	資材配布と住居改造指導
		3年次	全農家	モニタリング
	衛生教育ビデオ	1年次	63人	1本の映画を撮影（「妊婦の健康管理について）、上映会実施
		2年次	46人	1本の映画を撮影（「正しい病気の診断について）、上映会実施
	太陽熱温水器	1年次（調査のみ）	19戸	（家屋の条件調査のみ）
		2年次	5戸	モデル農家のうち試験的に5戸に設置、効果測定

なお、指標の観点における達成状況は以下のとおり。

指標項目	達成状況
2-1　実施された資源調査（数、内容）	• 対象の5村落において5回の調査を実施した。調査は1年次に2県(2村)、2年次に3県(3村)で実施した。 • 調査においては、PRAツールを用いて、対象村落の年表、地図、問題ランキング等を実施している。
2-2　策定された農村振興に係る活動計画（数、内容）	• 5県（5村）の資源調査にもとづき、農村振興活動計画を5村で作成した。 • 計画は農業や林業、畜産分野に加えて、衛生、生活改善等、多様な分野にわたった。
2-3　パイロット活動の成果（活動項目数、参加者数）	• 上表のとおり
2-4　実施されたモニタリング及び評価の内容	• モニタリングについては隔月モニタリング・ワークショップおよび農民自身による参加型評価ワークショップを実施している。 • 参加型評価ワークショップでは、農民自らがプロジェクトで得た便益、直面する課題、課題への解決法、今後の計画などを議論しており、プロジェクト活動を

	促進する有益な機会となった。 • また恒常的なモニタリングとしては、プロジェクト専門家およびカウンターパートが対象地を訪問し、折々での課題や今後の計画等について、関係者間で情報を共有してきた。

成果3：協力事業対象県内（5県）へ事業モデルを紹介・普及する仕組を構築する
（指標）
3-1　作成された普及計画の内容
3-2　作成されたマニュアル及び教材の数、内容、その活用状況
3-3　研修等（実施回数20回以上、参加人数500人以上）及び内容

成果3はプロジェクト完了時までに達成する見込みが高い。

プロジェクトでは4年次からプロジェクト活動の紹介を目的として、寧南県および美姑県でパイロット村の周辺村落の住民や郷・村幹部等を招き、ワークショップを多数実施してきた。終了時評価時点において、ワークショップは既に18回を数えており、紹介活動に関するプレゼンテーションの内容や方法、関係する行政機関の役割等については、一定の仕組みが構築されたといえる。

ただし、事業モデルの紹介・普及までの取り組みは、事業モデルの一部を構成するものと考えられるため、上記の成果2で指摘したとおり、事業モデルそのものの日中間のコンセンサスを経ることが必要である。そのため、終了時評価としては、「プロジェクト完了時点までに達成する見込みが高い」と表現した。なお、プロジェクト終了後を見据えた紹介普及実施体制や必要なプレゼンテーション内容等は、既に第5年次プロジェクト成果普及計画書にも記載されている。

なお、指標の観点における達成状況は以下のとおり。

指標項目	達成状況
3-1　作成された普及計画の内容	• 第5年次プロジェクト成果普及計画書において、普及対象となる村落の選定方法、普及活動において必要となる説明マテリアル、県・郷などの役割分担等、一連のプロセスが提示されている。
3-2　作成されたマニュアル及び教材の数、内容、その活用状況	• プロジェクト期間中を通じて、下記のマニュアルが作成された。 1年次：研修マニュアル 2年次：活動マニュアル（生計向上/生活改善）I 3年次：活動マニュアル（生計向上/生活改善）II 4年次：参加型アプローチマニュアル

	技術マニュアル ＊プロジェクト成果報告書内にて記載。 5年次：4年次マニュアルを補足 • マニュアルはそれぞれの必要内容を満遍なく網羅している。県・郷関係者のマニュアル活用状況については、適宜利用され始めているものの、更に有効利用されてゆくことが望ましい。
3-3 研修等（実施回数20回以上、参加人数500人以上）及び内容	• 終了時評価時点までに計18回の活動紹介ワークショップを実施し、参加者数は675人に及んだ。

(2) プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標: プロジェクト活動対象2村における実証を通じて、住民参加型手法による生態環境の保全と、農業生産性の向上を備えた農業農村開発（栽培技術の向上、集約作物の導入等）にかかる、持続可能な発展のための事業モデルを形成するとともに、活動対象2県内における紹介・普及を目指す

（指標）

1-1 プロジェクトのパイロット実証事業に参加した2県（2村）における住民のうち彼らの生産・生活条件及び対象地域の生態環境が改善したと認識している住民の比率：70%

1-2 事業モデルを拡大、継続するための予算が関係する行政機関に確保され、必要な連携が行政機関間で図られる

1-3 活動対象県内（2県）で事業モデルが紹介・普及された村の数とその実践内容：40村

プロジェクト目標はプロジェクト完了時までに達成される見込みが高い。

本プロジェクト目標の主たるポイントは、①事業モデルを形成すること、および②同モデルの紹介および普及を目指すことである。事業モデルの骨格は既に形作られているが、先述のとおり、モデル内容について日中関係者双方で意識を共有することが必要である。また、後者のポイントである、紹介および普及に向けた活動は、日本側専門家チームおよび州・県・郷関係者による活動紹介ワークショップを多数実施したことによって達成されているといえる。

指標にかかる達成状況は下記のとおりである。

指標項目	達成状況
1-1 プロジェクトのパイロット実証事業に参加した2県（2村）における住民のうち彼らの生産・生活条件及び対象地域の生	• 美姑県洛覚村で2013年4月に実施した全戸アンケート調査結果は下記のとおりである。「少し改善」および「大きく改善」を合算すると、それぞれ95%以上がプロジェクトによる正の変化を認識していることが分

<table>
<tr><td>態環境が改善したと認識している住民の比率：70%</td><td>かる。

表：生活状況・生産状況の変化にかかる認識
<table><tr><td></td><td>大きく改善</td><td>少し改善</td><td>変化なし</td></tr><tr><td>回答数</td><td>41</td><td>143</td><td>5</td></tr><tr><td>比率</td><td>22%</td><td>76%</td><td>2%</td></tr></table>
表：生態環境の変化にかかる認識
<table><tr><td></td><td>大きく改善</td><td>少し改善</td><td>変化なし</td></tr><tr><td>回答数</td><td>45</td><td>137</td><td>7</td></tr><tr><td>比率</td><td>24%</td><td>72%</td><td>4%</td></tr></table>
• なお、寧南県拉堡村でのアンケート調査が未だ実施されていない。プロジェクト完了時点までには実施する必要がある。</td></tr>
<tr><td>1-2 事業モデルを拡大、継続するための予算が関係する行政機関に確保され、必要な連携が行政機関間で図られる</td><td>• 活動紹介ワークショップの実践を通して、関係行政機関での役割分担および連携が実際に図られてきた。
• 事業モデル拡大・継続については、州科学技術局がプロジェクト終了後から、寧南県、美姑県でそれぞれ24村落を対象に本プロジェクトの成果を活用した事業を行なうことを計画している。</td></tr>
<tr><td>1-3 活動対象県内（2県）で事業モデルが紹介・普及された村の数とその実践内容：40村</td><td>• プロジェクトの活動紹介は4年次に2郷8村、5年次に16郷（15郷1鎮）の48村にて実施しており、合計56村に達する。</td></tr>
</table>

（5）貢献要因

- 農業・林業等にかかるスタディツアーが、参加者に多くの知見を与えるとともにモチベーションを向上させる効果をもたらした。
- プロジェクトは、日本語能力および、日本人専門家との活動を通して一定レベルの技術専門性を獲得した調整員を雇用している。このことによって、日本人専門家不在時の活動促進および活動モニタリングが可能となった。また、美姑県においては常駐のパイロット管理要員を配置し、現場レベルでのプロジェクト活動をフォロー、モニタリングする体制を整備した。これらの人的配置がプロジェクト活動の円滑化に貢献したものと考えられる。

（6）阻害要因

- コミュニケーションの項に記載のとおり、参加型アプローチにかかる日本側の考え方と中国側の考え方の違いを擦り合わせ、調整することに日中両者間で多大な努力および苦労

があった。また、プロジェクト開始当初の農村資源調査や農民大会などのワークショップが参加型アプローチにとっては重要な活動であり、且つ参加型の理念を関係者間で共有する場であったが、その当時に出席していたカウンターパートの一部が人事異動などでプロジェクトを離れた例も見られた。人事異動そのものはやむを得ない事情であるが、開始当時の理念共有の場を経験していないまま、新たに着任したカウンターパートにとっては、プロジェクト活動の意義を理解することが難しかった局面も度々見られた。

5．3 効率性

(1) 人的投入（日本側）

日本人専門家の投入にかかる人数、専門性、派遣タイミングについては概ね適切であるが、他方、派遣期間については業務量に比してやや不足していると考えられる。

ただし、これまで現地雇用の調整員を追加投入したり、週末を利用して村落へ移動したりするなどの調整努力を通じて、プロジェクト進捗そのものに大きな影響は生じていない。

(2) 人的投入（中国側）

カウンターパートはそれぞれの行政レベルにキーパーソンが配置されている。

県や郷レベルの幹部層において人事異動が幾度かあったために、技術移転および情報伝達の観点からは若干の効率性損失も見られた。しかしながら、総じては県レベルのカウンターパートを中心として、日本人専門家との協同活動が増加かつ定着している事実からは、概ね十分な人的投入がなされていると判断できる。

また、州レベルではプロジェクト調整指導グループを設置、州（県）政府はプロジェクト弁公室を設けたり、専属カウンターパートを配置したりするなどの投入も効率性の向上に寄与している。

(3) 物的投入

本プロジェクトの物的投入は移動に必要な車輌および事務機器等に限定されており、過大な投入はなされていない。また、投入資機材は現時点まで良好な状態で利用されている。

(4) ローカルコスト負担

一部、県職員の現地活動手当て（日当）をプロジェクト側が請け負っているが、その点を除いて概ねローカルコスト負担に問題は無い。

また、パイロット対象から外れた3県での活動継続に対して、中国側は予算投入を行っており、本予算の投入によって、プロジェクトが5県を対象とするフレームワークは保持されている。

5．4 インパクト

（1）上位目標の達成見込み

上位目標:

涼山州金沙江流域の土水流失の多い丘陵地帯で生態環境が維持・改善される

指標

1．事業モデルが涼山州金沙江流域に普及される（普及された県や村の数とその実践内容および生態環境の維持・改善状況）：180村

本プロジェクトによって構築された事業モデルは、涼山州政府のイニシアティブによって、プロジェクトが終了後、寧南県および美姑県の48村落を対象に事業を展開する計画となっている。涼山州金沙江流域に展開する事業モデルに関しては、プロジェクト関係者が試行錯誤を繰り返しながら形成を行っている。プロジェクト終了後、対象県内での事業展開を経て、対象地域を拡大することが予定されることから、上位目標の指標については、現実的な規模に修正することが必要である。

（2）波及効果

（経済面：収入向上）

プロジェクト活動の成果として、一部の参加農民において明らかな収入向上が見られた。寧南県ではクルミ苗木の販売を通して、3農家が1万～2万元の売り上げを得た。また、クルミの果実としての販売も来年から期待できる。さらにサンショウの販売も今年から少しずつであるが開始した。

美姑県においてもリボルビング方式で生まれた美姑ヤギの販売を通して、2千元以上の売り上げを得た農家が複数見られる。この他、ジャガイモや養豚からの収入増も生じている。

（社会面：生活改善）

美姑県で実施した「人畜分離」活動によって、「居住者の健康状態が改善した（下痢の減少、虫刺され減少等）」や「家屋内が衛生的になった」との認識を示す家庭が多数見られた。同じく美姑県における改良かまどの導入によって、子供の火傷が減少したことや薪の消費量が減ったことに伴い、女性を中心に薪拾いの労働力が軽減されたことも報告されている。

（社会面：住民意識）

住民の意識変化は確実に生じている。村落でのワークショップにおいても自らの代の裨益を追及するのではなく、長期的な子孫の代の裨益を考えたコメントや実際の活動（植林など）も散見されるようになっている。

（社会面：インフラ）

プロジェクト開始後、美姑県において県城から対象村落までの道路や橋梁などインフラが整備された。また、寧南県においても対象村落内の道路が本プロジェクトとの関連において整備された。これらは本プロジェクトの実施を契機として、県政府が本地域へのイン

フラ整備を優先させたことに拠るものと考えられる。

（社会面：周辺村落への広がり）

パイロット村落での取り組みが周辺村落に普及し始めた例が見られる。寧南県の対象村落でクルミ栽培が順調に進んでいることに伴い、周辺村落がクルミ栽培に更に興味を示すようになった（基本的に以前から同地域ではクルミ栽培は行なわれていた）。周辺村落からの種・苗木の供与依頼を受けた郷政府は、現在既に郷内の全5村落に対して無償でクルミの種・苗を配布している。

また、美姑ヤギもパイロット村落の隣村（七色村）で普及させる計画が進められている。本プロジェクト実施前まで、美姑ヤギは本パイロット村落のような高地では飼育が不可能と考えられていた。しかしながら、本プロジェクトが成功したことによって、同地理条件の隣村でも美姑ヤギの飼育が可能であることを確信でき、そのため導入計画が進められるようになった。

5．5 自立発展性

（1）政策面

第12次5カ年計画などに見られるとおり、貧困削減や少数民族対策、生態保全を目標とした活動は、今後も政策的支援を得られる可能性が非常に高い。

他方、参加型アプローチについては、中国でも近年徐々に受益者負担や民間参加の重要性などが言われるようになっており、大きな方向性としては中国政府による事業実施の視点として浸透してゆく可能性が高いと考えられる。

（2）組織面

本プロジェクトが策定する「事業モデル」は、現状の州-県-郷-村の各行政組織の枠組みおよび連携の仕組みを利用する。事業が目指す個々の活動内容には、それぞれに対応する各種セクター部署が設けられており（農業局、林業局等）、組織構成の観点からは自立発展性が概ね担保されている。

（3）技術面

本プロジェクトが取り組んできた技術は、基本的に中国における既存技術であり、州および県職員で対応が可能である。そのため、各セクターに特化した分野技術については自立発展性が高いと考えられる。

他方、参加型アプローチにかかる各種手法ついては、これまでの一連のプロジェクト活動を通じて、県や郷の職員が概ね習得したといえるが、今後はこれら習得した技術を同県内および周辺県・郷の職員に技術を伝播・移転してゆくことが課題となる。現在までのところ、技術や知見の蓄積はカウンターパート個々人のレベルに留まっており、組織内での広がりは十分とは言えない状況にある。今後は、参加型アプローチに関する普及の役割を担う部署や個人の特定を行ない、組織内での研修を実施したり、現場でのOJT的な活動を行

ないながら、これまでプロジェクトに参加してこなかった人員に対しても技術を伝播・普及してゆく取り組みが求められる。

（4）財政面

新農村建設計画に代表されるように、近年の中国では農村部の生活改善に資する事業に対して比較的潤沢な予算が充てられている。本プロジェクトの対象地周辺もこのような裨益対象に該当する地域であることから、今後も財政面での自立発展性は概ね担保されていると判断できる。

6. 結論

本プロジェクトは、近年中国でも重視されている住民参加型アプローチを採用した、いわゆる村落開発プロジェクトであり、中国側の政策面およびニーズ等に合致した取り組みであった。実際にパイロット活動を実施した二つの村落では、経済面、社会面で多様な正のインパクトが生じている。他方、本プロジェクトで採用した住民参加型アプローチの一部について、日本側と中国側で考え方に未だ乖離が見られる。今後、本プロジェクトの成果を事業モデルとして拡大、普及させてゆくために、日中関係者間で事業モデルに関する理念の共有ならびに必要に応じた調整作業が残されている。

7. 提言

(1) 山西省等中国国内で実施された参加型開発の先行事例について、現地スタディーツアー等を通じて、現地の関係者と経験の共有を図り、涼山州での事業モデル構築の参考にすることを強く提言したい。

(2) 中国側が実施してきている従来の参加型開発に、本プロジェクトを通じて日本側が目指した「問題解決型の参加型開発」の手法の一部が取り込まれ始めていることが確認された。今後プロジェクトの残り期間で、この調整が一層促進され、現地の風習、社会背景に沿った形での参加型開発が構築され、それが事業モデルの基礎となって、モデルサイトから涼山州金沙江流域全体に広がることを期待したい。

添付資料

別添１プロジェクト投入実績

別添２PDM

別紙２

専門家派遣実績（コンサルタント）

2013年6月30日現在

予算年度（派遣開始時）	指導分野	氏名	派遣時所属先	期　　間	備考
2009	総括／農村開発	後藤　道雄	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2009.05.31-2009.06.14 （国内作業） 2009.06.15-2009.07.14 2009.11.25-2009.12.14	
	副総括／生活改善／生計向上	須藤　　晃	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2009.07.08-2009.09.20 2009.11.25-2009.12.14	
	農業技術／生産性向上	永井　和夫	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2009.07.08-2009.08.21 2009.11.10-2009.12.14	
	土地利用計画／土壌保全	柴田　俊英	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ（補強）	2009.06.15-2009.08.21 2009.11.19-2009.12.14	
	畜産振興	折田　岩美	JOFCA（補強）	2009.08.09-2009.10.22	
	植林／造林／草地管理	豊田　貴樹	JOFCA	2009.06.15-2009.08.28 2009.11.23-2009.12.22	
	参加型研修／研修計画	加藤　和久	JOFCA	2009.06.15-2009.09.27 2009.11.10-2009.12.14	
	農村社会経済／事業評価	山下　秀勝	JOFCA	2009.06.15-2009.08.13 2009.10.25-2009.12.08	
	中国語通訳	古川　　明	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ（補強）	2009.06.15-2009.07.14 2009.11.25-2009.12.14	
	業務調整／プロジェクト管理	大石　貴行	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2009.07.08-2009.09.15 2009.11.25-2009.12.24	自社負担2009.08.07-09.05
2010	総括／農村開発	後藤　道雄	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2010.04.13-2010.05.12 2010.11.10-2010.12.24	
	副総括／生活改善／生計向上	須藤　　晃	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2010.03.10-2010.05.08 2010.08.15-2010.09.30 2010.10.13-2010.12.24	
	農業技術／生産性向上	永井　和夫	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2010.08.09-2010.09.30 2010.10.19-2010.12.24	
	土地利用計画／土壌保全	柴田　俊英	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ（補強）	2010.03.10-2010.06.27 2010.11.10-2010.12.19	
	畜産振興（1）	折田　岩美	JOFCA（補強）	2010.03.21-2010.05.19 2010.10.10-2010.12.08	
	植林／造林／草地管理（1）	豊田　貴樹	JOFCA	2010.03.10-2010.04.08 2010.11.15-2010.12.14	

	参加型研修／研修計画	加藤　和久	JOFCA	2010.03.08-2010.05.02 2010.06.02-2010.06.27 2010.08.15-2010.12.24	自社負担2010.12.22-12.24
	農村社会経済／事業評価 植林／造林／草地管理(2)	黄　勝澤	JOFCA	2010.05.12-2010.07.10 2010.10.05-2010.12.08	自社負担2010.12.04-12.08
	中国語通訳	古川　明	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(補強)	2010.04.13-2010.05.12 2010.11.10-2010.12.24	
	業務調整／プロジェクト管理 畜産振興(2)	猪ノ口　愛	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2010.10.13-2010.12.24	自社負担2010.12.12-12.24
2011	総括／農村開発	後藤　道雄	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2011.03.25-2011.04.08 2011.11.20-2011.12.24	
	副総括／生活改善／生計向上	須藤　晃	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2011.02.12-2011.02.16 2011.04.21-2011.05.20 2011.10.10-2011.11.03 2011.11.25-2011.12.04 2011.12.12-2011.12.24 2011.12.25-2011.12.31 (国内作業)	自社負担2011.02.12-02.16
	農業技術／生産性向上	永井　和夫	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2011.03.08-2011.04.06 2011.07.30-2011.08.28	
	畜産振興(1)	折田　岩美	JOFCA(補強)	2011.04.03-2011.04.27 2011.08.13-2011.09.01	
	参加型研修／研修計画	加藤　和久	JOFCA	2011.06.02-2011.07.01 2011.08.27-2011.09.25	
	農村社会経済／事業評価 植林／造林／草地管理(2)	黄　勝澤	JOFCA	2011.03.23-2011.04.26 2011.07.06-2011.07.26 2011.09.15-2011.11.17	
	中国語通訳	古川　明	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(補強)	2011.03.25-2011.04.08 2011.11.20-2011.12.24	
	業務調整／プロジェクト管理 畜産振興(2)	猪ノ口　愛	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2011.04.15-2011.06.13 2011.10.30-2011.12.24	自社負担2011.05.15-06.13 自社負担2011.10.30-11.24
2012	総括／農村開発	後藤　道雄	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2012.03.19-2011.04.17 2012.10.22-2012.11.20	
	副総括／生活改善／生計向上	須藤　晃	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2012.04.09-2012.04.28 2012.07.23-2012.09.07 2012.10.14-2012.11.20	
	農業技術／生産性向上	永井　和夫	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2012.10.22-2012.11.20	
	畜産振興(1)	折田　岩美	JOFCA(補強)	2012.10.22-2012.11.20	
	参加型研修／研修計画	加藤　和久	JOFCA	2012.03.19-2012.04.20 2012.10.24-2012.11.13	

	農村社会経済／事業評価 植林／造林／草地管理(2)	黄　　勝澤	JOFCA	2012.03.19-2012.04.17 2012.05.22-2012.06.30 2012.08.20-2012.11.16 2012.11.28-2012.12.17	
	中国語通訳	古川　　明	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(補強)	2012.03.19-2012.04.17	
	中国語通訳	小田　幸雄	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(補強)	2012.10.22-2012.11.20	
	業務調整／プロジェクト管理 畜産振興(2)	猪ノ口　愛	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2012.03.19-2012.04.17 2012.08.04-2012.10.02 2012.11.22-2012.12.21	
2013	総括／農村開発	後藤　道雄	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2013.11.25-2013.12.24(予定) 2014.01.15-2014.02.03(予定)	
	副総括／生活改善／生計向上	須藤　　晃	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2013.04.09-2013.05.24 2013.09.05-2013.10.02(予定) 2013.11.25-2013.12.24(予定) 2014.01.15-2014.02.03(予定)	
	農業技術／生産性向上	永井　和夫	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2013.06.01-2013.06.30	
	畜産振興(1)	折田　岩美	JOFCA(補強)	2013.06.19-2013.05.24	
	参加型研修／研修計画	加藤　和久	JOFCA	2013.06.01-2013.06.30 2013.11.25-2013.12.17(予定)	
	農村社会経済／事業評価 植林／造林／草地管理(2)	黄　　勝澤	JOFCA	2013.04.09-2013.06.10 2013.08.31-2013.09.30(予定) 2013.10.10-2013.11.17(予定) 2013.11.25-2013.12.24(予定) 2014.01.15-2014.02.03(予定)	
	中国語通訳	古川　　明	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(補強)	2013.11.25-2013.12.24(予定) 2014.01.15-2014.02.03(予定)	
	業務調整／プロジェクト管理 畜産振興(2)	椰野　愛 (旧姓：猪ノ口)	三祐ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ	2013.06.01-2013.06.30 2013.10.05-2013.11.05(予定) 2014.01.09-2014.02.03(予定)	

別紙４

カウンターパート配置実績（涼山州政府）

No.	氏名	所属、役職名	担当分野	配置期間	C／P 日本人専門家	訪日研修（出発月）	備考（役職、異動等）
1	周　大海	州科技局　局長		2009年６月～現在		2011年02月	
2	王　会蓮	州科技局　副局長		同上			
3	譚　平	州科技局　課長		同上		2012年03月	
4	胡　光亞	州科技局　副主任		2009年６月～2013年２月			人事異動による転勤
5	趙　超	州農業局　総農芸師（講師）		同上		2011年02月	
6	劉　健	州牧畜局　講師		同上		2012年03月	
7	楊　洪彬	州林業局　副局長		同上			
8	侯　川華	州衛生局　副局長		同上			
9	趙　建明	州水利局　副局長		同上			
10	唐　波	州教育局　副局長		同上			
11	胥　国栄	州貧困対策弁公室　副主任		同上			
12	馬　剛	州科技局　職員		2013年2月～現在			（胡　光亞氏後任）

カウンターパート配置実績（美姑県）

No.	氏名	所属、役職名	担当分野	配置期間	C／P 日本人 専門家	訪日研修 (出発月)	備考（役職、異動等）
1	阿以 拉則	科技局　局長		2009年６月～2011年３月		2011年02月	人事異動による転勤
2	吉克　妈麻	科技局　職員		同上			人事異動による転勤
3	呉　利文	農業科技局　副局長		2011年４月～現在		2012年03月	
4	陳　曉輝	農業科技局　職員		同上			
5	海来　吉木	農業科技局　課長		2009年６月～現在			
6	海来　魯也	林業局　課長		2009年６月～現在			
7	阿璽　阿布	牧畜局　職員		2009年６月～現在			
8	呉　加勇	合姑洛郷　郷長		2009年６月～現在			

カウンターパート配置実績（寧南県）

No.	氏名	所属、役職名	担当分野	配置期間	C／P 日本人 専門家	訪日研修 (出発月)	備考（役職、異動等）
1	殷　崇洪	科技局　局長		2009年６月～2011年３月			人事異動による転勤
2	樊　飛雄	科技局　局長		2011年４月～2012年８月			人事異動による転勤
3	蒋　涛	科技局　局長代理		2012年８月～2012年12月			
4	蒋　文振	科技局　局長		2012年1月～現在			
5	吳　賢友	科技局　副局長		2009年６月～現在		2011年02月	
6	劉　順雲	林業局　課長		2009年６月～現在			
7	全　玉忠	農業局　課長		2009年６月～現在			
8	羅　方憲	牧畜局　課長		2009年６月～現在			
9	陳　煌輝	倮格鄉　職員		2009年６月～2010年4月			業務担当変更による変更
10	俄比呷底	倮格鄉　副鄉長		2010年５月～2011年2月			
11	楊　正友	倮格鄉　副鄉長		2011年３月～2012年5月			
12	俄的　呷日	倮格鄉　副鄉長		2012年5月～2013年4月			
13	范 依伙	倮格鄉　職員		2013年4月～現在			

別紙5

携行機材リスト

州科技局プロジェクト執務室用機材

機材名	数量		型番/仕様
コピー機	1	台	型番: Fuji Zerox、Docucentre 2003 仕様: 白黒印刷、両面ｺﾋﾟｰ、ｿｰﾄ、ﾌｨｰﾀﾞｰ、ｽｷｬﾝ付
プリンター	1	台	型番: Canon LBP5050 仕様: A4対応、白黒/ｶﾗｰ
デスクトップコンピューター	1	台	型番: Lenovo A6800R 仕様: 2Gﾒﾓﾘ、320GHDD、LCDﾓﾆﾀｰ付、DVD付、XP Home
ノートコンピューター	1	台	型番: Lenovo V450-TSI 仕様: 2Gﾒﾓﾘ、320GHDD、DVD付、XP Home
プロジェクター	1	台	型番: 東芝TDP-XP1 仕様: DLP方式
ファックス	1	台	型番：Panasonic 709 仕様: A4対応
デジタルカメラ	1	台	型番：Canon EOS500D

専門家チーム執務室（美姑県）用機材

機材名	数量		型番/仕様
コピー機	1	台	型番: Fuji Zerox、Docucentre 2007 仕様: 白黒印刷、両面ｺﾋﾟｰ、ｿｰﾄ、ﾌｨｰﾀﾞｰ、ｽｷｬﾝ付
プリンター	1	台	型番: Canon LBP3300 仕様: A4対応、白黒/ｶﾗｰ
デスクトップコンピューター	1	台	型番: Lenovo A6800R 仕様: 2Gﾒﾓﾘ、320GHDD、LCDﾓﾆﾀｰ付、DVD付、XP Home
事務所備品	一	式	机、棚など

専門家チーム執務室（寧南県）用機材

機材名	数量		型番/仕様
コピー機	1	台	型番: Fuji Zerox、Docucentre 2007 仕様: 白黒印刷、両面ｺﾋﾟｰ、ｿｰﾄ、ﾌｨｰﾀﾞｰ、ｽｷｬﾝ付
プリンター	1	台	型番: Canon LBP3300 仕様: A4対応、白黒/ｶﾗｰ
デスクトップコンピューター	1	台	型番: Lenovo A6800R 仕様: 2Gﾒﾓﾘ、320GHDD、LCDﾓﾆﾀｰ付、DVD付、XP Home
事務所備品	一	式	机、棚など

県レベル事務所用機材（美姑県／寧南県対象、3年次追加分）

機材名	数量	形式・型番
ノートパソコン	1台づつ	LENOVO B460t3-380
スキャナ	1台づつ	HP(惠普) hp4010
ファクス電話	1台づつ	松下 338
スキャナ	1台づつ	奥图码 DP338
カメラ（メモリカード付）	1台づつ	CANON（金士顿） EOS500D（8G）

別紙８

活動の達成度

活動		活動・達成状況	理由
1-1.	関係機関による責任体制を明確化し、事業実施のための連携、調整をおこなう	完了（第１年次業務及び第2年次業務）	
1-2.	プロジェクトの関係者の能力及び知識向上のための住民参加型農村開発にかかる研修を実施する	完了（第１年次業務及び第2年次業務）（4年次にも追加研修を実施）	
2-1.	農村の資源調査（土地利用、自然、社会経済、市場に関する情報）を行う	完了（第１年次業務及び第2年次業務）	
2-2.	住民参加型手法を活用し、生態環境保全に配慮した農村振興に係る活動計画（流域土地利用・保全計画／農業振興計画／農村生活環境改善計画）を策定する	完了（第１年次業務及び第2年次業務）	
2-3.	活動計画に基づき、モデル農家を選定する	完了（第１年次業務及び第2年次業務）*1	
2-4.	モデル農家においてパイロット活動（①生態環境保全に配慮した農業生産性向上に係る活動、②生態環境保全に配慮した農民の生活改善に係る運動）を実施する	実施中（パイロット活動の実施は5年次も継続中）	
2-5.	パイロット活動のモニタリングと評価を行い、結果を取りまとめて事業モデルとして確立する	完了（第4年次業務）（モニタリングは5年次も継続）	
3-1.	事業モデルの普及計画を作成する	完了（第4年次業務及び第5年次業務）	
3-2.	事業モデル普及のためのマニュアル及び教材を作成する	完了（第4年次業務及び第5年次業務）	
3-3.	事業モデルの紹介・普及を目的とした研修等を開催する（行政スタッフ、技術普及員、農民リーダー対象）	完了（第4年次業務及び第5年次業務）	

*1 モデル農家を選定してのパイロット活動実施は１、２年次の活動において採択した手法であったが、その後のパイロット活動の推移や関係者との協議を通じて、「各活動に20軒程度」というモデル農家の条件が実際のパイロット活動にそぐわない状況も生じてきたことから、３年次以降は（1､2年次でいうところの）モデル農家に限定しての活動は行っていない。

別紙9

PDM進捗状況

a)成果

成果１（協力対象県（5県（5村））の関係者（州、県、郷鎮及び村レベル機関行政スタッフ及び農民）が参加型で農村開発を行う能力が向上する。）	
指標	1)定例会議の開催（実施回数32回以上、参加人数500人以上）と決定事項の内容
	2)研修（実施回数40回以上、参加人数700人以上）及び内容
達成度	1)定例会議としては州レベル（省代表も参加）のJCC（毎年１回）の他、パイロット現場村でのモニタリングワークショップを２ヶ月に１度開催している。また、各年次の終了直前に現場村にてパイロット活動の住民参加型年次評価を実施してきた。前者についてはすでに実施回数は総計28回、参加人数は累計で357人、後者については総計6回、参加人数162人となっており、合計で実施回数34回、参加人数は519人に達している（2013年6月末時点）。この双方とも、内容については各年次の中間報告書、年次報告書を参照のこと。
	2)参加型開発手法研修については、州科技局、県科技局、また県レベル各部局の職員に対して1年次、4年次と2回にわたり座学での研修を実施しており、また実施研修としての農村資源調査で座学で習得したインタビューや各種参加型ツールの現場での実際の用法の研修も行った。農民や村幹部は各パイロット活動において技術指導を受けており、また技術研修を目的としたスタデイツアーを開催しこれを通じて能力を発展させてきている。参加型開発研修はすでに4回、出席人数108人、技術研修は31回、出席人数は483人となっている。スタディツアーは郷内のみならず他県の先進地区に今のパイロット村の農民を連れていって実施しており、これまでに3回、79人が参加している。したがい、成果１における研修の総開催回数と総参加人数は38回、670人に達している。今年度（5年次）はスタディツアーが2回計画され30人の出席を予定していることから、PDMでの指標（40回、700人）を達成見込みである。

成果２（生態環境と調和した農業の持続性向上と農民生活の改善を図る事業モデルが確立する。）	
指標	1)実施された資源調査（数、内容）
	2)策定された農村振興に係る活動計画（数、内容）
	3)パイロット活動の成果（活動項目数、参加者数）
	4)実施されたモニタリング及び評価の内容
達成度	1)資源調査は１年次に先発2県の2村、２年次に後発3県の3村で実施し完了している。それぞれの報告書は１年次年間報告書（2県）、2年次年間報告書(3県）の添付資料を参照されたい。
	2)上述の5県（5村）の資源調査にもとづき、農村振興活動計画が5村で作成されている。内容は1年次契約の成果品としての農村振興活動計画書（先行2県の2村）、同じく2年次契約の成果品としての同計画書（後発3県の3村）を参照のこと。
	3)パイロット活動は現在も実施中である。現在までの活動項目数、参加者数についてはこれまでの定期報告書とパイロット活動計画書を参照のこと。また、対象村内で主に活動対象農民に対する様々な研修を行って技術の定着を促進したり、県外の優良事業へのスタディ・ツアーなどを実施して住民の意識変化を図っている。また成果として、これらの活動で良好な結果を得たものを事業モデルとして周辺村への紹介・普及を行っている。
	4)モニタリングについては上述の隔月モニタリングワークショップ、年末の参加型事業評価ワークショップを実施している。これらのモニタリングと評価の内容はそれぞれの年次の中間報告書、年度報告書に収録されているので参照されたい。

成果３（協力事業対象県内（5県）へ事業モデル紹介・普及する仕組を構築する。）	
指標	1)作成された普及計画の内容
	2)作成されたマニュアル及び教材の数、内容、その活用状況
	3)研修等（実施回数20回以上、参加人数500人以上）及び内容
達成度	1)事業モデルの普及計画は4年次成果品としての「プロジェクト成果普及計画書」にとりまとめられている。また、この計画書をもとに実際に4年次後半に事業モデル紹介活動を8村に置いて実施し、得られた教訓（内容、対象、教材の有効性など）を反映して5年次契約の成果品としての「プロジェクト成果普及計画書」を5年次の5月に提出している。
	2)パイロット活動のマニュアルは1年次から3年次までは技術協力成果品として毎年、実施した個々のパイロット活動のマニュアルをとりまとめて作成・提出するとともに特に郷村レベルの職員に配布している。4年次から5年次は、事業モデル紹介活動に教材として用いる「プロジェクト成果報告書」の一部分としてマニュアルをとりまとめ、紹介ワークショップにおいて郷職員や村幹部に説明・配布している。
	3)事業モデルの紹介は5年次に2県で16郷(正確には15郷と1鎮）、49村にて完了している。4年次に行った紹介活動まで含めて、これまでに18回の事業モデル紹介ワークショップを実施し、参加者数は675人となっている。

b)プロジェクト目標

プロジェクト目標（プロジェクト活動対象2村における実証を通じて、住民参加型手法による生態環境の保全と、農業生産性の向上を備えた農業農村開発（栽培技術の向上、集約作物の導入等）にかかる、持続可能な発展のための事業モデルを形成するとともに、活動対象2県内における紹介・普及を目指す。）	
指標	1)プロジェクトのパイロット実証事業に参加した2県（2村）における住民のうち彼らの生産・生活条件及び対象地域の生態環境が改善したと認識している住民の比率：70%
	2)事業モデルを拡大、継続するための予算が関係する行政機関に確保され、必要な連携が行政機関間で図られる
	3)活動対象県内（2県）で事業モデルが紹介・普及された村の数とその実践内容：40村
達成度	1)パイロット対象2村のうちのひとつ、美姑県合姑洛郷洛覚村で2013年4月に実施した全戸アンケート調査では、指標に記載された上記の認識を回答した住民の比率は94%に達している。
	2)モデル事業紹介は4年次から長期間行ってきたので、行政機関間での連携体制は構築されたと判断する。予算確保状況については中国側実施機関からの情報・資料を参照されたい。
	3)事業モデルの紹介は5年次に2県で16郷（15郷1鎮）の49村にて完了している。紹介活動の内容は5年次中間プロジェクト業務進捗報告書の添付資料を参照のこと。なお4年次にも紹介活動を2郷8村で実施しており、これを加えれば紹介活動を行った村の合計は57村に達する。

c)上位目標

上位目標（涼山州金沙江流域の土水流失の多い丘陵地帯で生態環境が維持・改善される。）	
指標	事業モデルが涼山州金沙江流域に普及される（普及された県や村の数とその実践内容および生態環境の維持・改善状況）：180村
達成度	現時点で達成度の予測は不可能である。今年次にチームがおこなった事業モデル紹介活動の内容につき、中国側がその重要性、有効性を理解し独自の活動として積極的に他地域に普及させていくか、に大きく左右されると思料する。

日本側ローカルコスト負担実績　(2009-2012年度は精算額、2013年度は契約額)

単位：日本円

No.	項　目	費　目	予算年度 2009	2010	2011	2012	2013(新積算方式)	
1	一般業務費	傭人費	4,873,138	7,931,210	6,219,000	5,941,282	一般業務費	
		機材保守・管理費	185,028	348,695	404,000	262,605	①一般傭人費	0
		消耗品費	210,711	496,433	1,318,700	485,264	②特殊傭人費	3,906,514
		旅費・交通費	4,670,183	4,588,030	2,679,000	2,250,226	③車両関連費	2,409,514
		通信運搬費	108,948	237,004	526,700	200,064	④借料損料	376,740
		資料等作成費	816,089	1,349,265	904,000	311,154	⑤施設・機材保守管理費	27,820
		借料損料	0	0	0	0	⑥消耗品費	474,097
		光熱水料	17,365	51,023	69,300	32,401	⑦旅費・交通費	9,931,831
		人材養成確保費	0	0	0	0	⑧通信・運搬費	191,440
		施設・維持管理費	11,727	27,110	19,800	30,324	⑨資料等作成費	898,699
		現地研修費	163,640	423,418	230,000	74,149	⑩水道光熱費	29,810
		国内活動費	0	0	0	0	⑪雑費(*1)	2,993,342
		国内再委託費	0	0	0	0	成果品作成費	51,000
		雑費(*1)	2,715,324	4,620,550	11,602,000	3,925,543		
合　計			13,772,153	20,072,738	23,972,500	9,587,469		18,246,465

総計 (2009～2013) 85,651,325

(*1)パイロット活動経費

別紙12

本邦研修実績

2013年7月31日現在

No.	予算年度	研修科目	氏名	受入機関	期間
1	2010	生態環境保全総合開発	周大海	JICA	2011. 2. 23-3. 4
2	2010	生態環境保全総合開発	候川華	JICA	2011. 2. 23-3. 4
3	2010	生態環境保全総合開発	趙　超	JICA	2011. 2. 23-3. 4
4	2010	生態環境保全総合開発	楊燕秋	JICA	2011. 2. 23-3. 4
5	2010	生態環境保全総合開発	藤艶梅	JICA	2011. 2. 23-3. 4
6	2010	生態環境保全総合開発	阿以拉者	JICA	2011. 2. 23-3. 4
7	2010	生態環境保全総合開発	呉賢友	JICA	2011. 2. 23-3. 4
8	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012. 3. 8-17
9	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012. 3. 8-17
10	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012. 3. 8-17
11	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012. 3. 8-17
12	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012. 3. 8-17
13	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012. 3. 8-17
14	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012. 3. 8-17
15	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012. 3. 8-17
16	2011	参加型手法による農村開発		JICA	2012. 3. 8-17

序号	姓名	性别	年龄	单位	职务
1	邵协	女	53	四川省凉山州人民政府	副州长
2	胡丽	女	46	凉山州项目协调领导小组办公室	副主任
3	刘[illegible]	男	46	四川省凉山州畜牧局	总畜牧师
4	杜[illegible]明	男	45	四川省凉山州林业局	林业工程师
5	谭平	男	43	四川省凉山州科学技术局	科长
6	吴利文	男	44	四川省凉山州[illegible]县农[illegible]科学技术局	副局长
7	钟迪平	男	[illegible]	四川省[illegible]科技和经济[illegible]信息化局	副局长
8	刘[illegible]祥	男	40	四川省[illegible]东县农业和科学技术局	副局长
9	余河	男	37	四川省凉山州宁南县[illegible]格乡人民政府	乡长

别紙13

各種研修、会議等一覧

2013年6月30日現在

番号	年次	日時	場所	科目	講師		参加者		人数
					所属	氏名	所属	氏名	
1	1年度	2009年7月21-23日	西昌市	参加型手法研修	四川百瑞勤工程管理咨询有限公司	林凌 范隆庆 巫嘉伟	州、县各部门	州科技局 王会莲 州科技局 谭平 州科技局 钟先银 州科技局 胡光亚 州农业局 彭音 州林业局 杨洪彬 州畜牧局 刘健 州水利局 赵建民 宁南县科技局 殷崇洪 宁南县科技局 吴贤友 宁南县畜牧局 罗方宪 宁南县林业局 刘顺云 宁南县农业局 仝玉忠 美姑县科技局 吉克妈麻 美姑县林业局 海来鲁也 美姑县农业局 海来吉木 美姑县水利局 王少东	23
2	2年度	2010年8月24-27日	西昌市	参加型手法研修	四川百瑞勤工程管理咨询有限公司	范隆庆 韩伟 张秀雷	州科技局、后三县各部门	州科技局 王会莲 州科技局 谭平 州科技局 胡光亚 布拖县科技局 钟建平 布拖县科技局 刘勇 布拖县农业局 穆鹏 布拖县林业局 宋超 布拖县畜牧局 杨程 布拖县水务局 俄底子鬼 金阳县科技局 阿说色日 金阳县科技局 阿力只牛 金阳县农业局 刘涛 金阳县林业局 陈国中 金阳县畜牧局 石一日约 金阳县水务局 吉好瓦色 会东县科技	20

3	2年度	2010年3月2日	美姑县洛觉村	土豆优良品种栽培方法	美姑县农业局	海来吉木	洛觉村村民	俄其作给、沈尔以培、曲比拉日、沈尔依副、俄比曲呷、曲比依勒、曲比以拉、曲比木吾、乌尔书一、曲比牛牛、吉吉妈史、吉拉日日、阿作尔格、吉吉达果、吉后曲日、吉吉说日、吉吉阿培、曲比支日、曲比阿吉	19
4	2年度	2010年3月16日	宁南县拉堡村	土豆优良品种栽培方法	宁南县农业局	秦开禄	拉堡村村民	曲么伍日、老伙初且、曲么子窝	3
5	2年度	2010年3月23日	美姑县洛觉村	参与式乡土玉米培育和栽培方法	美姑县农业局	吉俄打铁	洛觉村村民	俄其作给、曲比拉日、沈尔依副、吉拉依富、阿作木铁、曲比以洛、吉吉石古、吉吉木洛、曲比支日	9
6	2年度	2010年3月27日	宁南县拉堡村	太阳能热水器组装方法	日方项目组	须藤晃	拉堡村村民	曲么伍日、田友且、哈马牛聪	3
7	2年度	2010年4月6日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		12
8	2年度	2010年4月7日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		8
9	2年度	2010年05月09日	美姑县洛觉村	改良炉灶制作方法	日方项目组	柴田俊英	洛觉村村民	沈尔以古、曲比木曲、俄木石布、曲比果果、曲比石布、吉吉拉夫、吉后门勒	7
10	2年度	2010年05月11日	美姑县洛觉村	大棚蔬菜栽培方法及管理方法	日方项目组 美姑县农业局	柴田俊英 海来吉木	洛觉村村民	曲比达果、曲比达体、曲比为机、曲比支体、曲比牛牛	5
11	2年度	2010年6月2日	美姑县洛觉村	大棚番茄搭架培训会	日方项目组	柴田俊英	洛觉村村民	曲比达果、曲比达体、曲比为机、曲比支体、曲比牛牛	5
12	2年度	2010年6月8日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		21
13	2年度	2010年6月8日	宁南县拉堡村	大棚蔬菜的育苗方法	日方项目组	柴田俊英	拉堡村村民	曲么歪聪、杨此牛、石日海、赵则初	4

14	2年度	2010年6月10日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		16
15	2年度	2010年6月11日	宁南县拉堡村	经济林种植方法	日方项目组	黄胜泽	拉堡村村民	曲么拉曲、吉尔史歪、唐以发、唐色以、唐友初、石强、石春、何牛也、蔡伙初、鲁友日·鲁子日、陈吉嘿、赵小俄、马長友、赵子沙、鲁华、哈马牛聪、田子哈、吉伙色干、安吉日、马金伍、啊咪子初	21
16	2年度	2010年06月20日	美姑县洛觉村	经济林种植及管理方法	日方项目组	加藤和久 黄胜泽	洛觉村村民	曲比海石、吉拉以服、吉拉日日、张国志、吉吉有布、吉巴夫一、乌尔书一、阿西干儿、曲比布日、曲比克石、曲比牛牛、吉曲为石、曲比洛格日、张国也、吉吉马史、曲比支体、吉吉三哥、阿作木铁、阿作尔格、吉后曲日、吉吉格布、曲比以洛、吉吉达果、吉吉石古、吉后木拉、吉吉木洛、曲比支日、曲比勤石、吉吉解放、吉吉史达、吉	35
17	2年度	2010年7月6日	宁南县拉堡村	经济林橘橙种植回填方法	宁南县农业局	何顺亮	拉堡村村民	马金伍、哈马牛也	2
18	2年度	2010年8月13日 9月24日	美姑县洛觉村	冬季番茄培育技术培训会	日方项目组	永井和夫	洛觉村村民	曲比达果、曲比达体、曲比为机、曲比支体、曲比牛牛	5
19	2年度	2010年8月16日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		8
20	2年度	2010年8月18日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		12
21	2年度	2010年8月26日	宁南县拉堡村	大棚番茄搭架技术培训会	日方项目组	永井和夫	拉堡村村民	曲么歪聪、杨此牛、曲么留日、石日海、赵则初	5
22	2年度	2010年9月27日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		15

23	2年度	2010年9月29日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		10
24	2年度	2010年10月10日	美姑县洛觉村	核桃种植及管理方法	日方项目组	黄胜泽	洛觉村村民	曲比拉日、曲比拉拉、曲比海石、吉拉以服、吉拉日日、张国志、吉吉有布、吉巴夫一、乌尔书一、阿西干儿、曲比布日、曲比克石、曲比牛牛、吉曲为石、曲比洛格日、张国也、吉吉马史、曲比支体、吉吉三哥、阿作木铁、阿作尔格、吉后曲日、吉吉格布、曲比以洛、吉吉达果、吉吉石古、吉后木拉、吉吉木洛、曲比支日、曲比勤石、吉	37
25	2年度	2010年11月9日	宁南县拉堡村	核桃种植现场技术指导会	日方项目组	黄胜泽	拉堡村村民	曲么拉曲、吉尔史歪、赵子作、安吉日	4
26	2年度	2010年11月17日	宁南县拉堡村	[redacted]	项目组	项目组专家协调员	乡村干部村民		29
27	2年度	2010年11月22日	宁南县拉堡村	大棚番茄搭架技术培训会	日方项目组	永井和夫	拉堡村村民	杨此牛、曲么留日	2
28	2年度	2010年12月2日	美姑县洛觉村	[redacted]	项目组	项目组专家协调员	乡村干部村民		25
29	2年度	2010年12月5日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		9
30	2年度	2010年12月9日	宁南县拉堡村	大棚番茄搭架技术培训会	日方项目组	永井和夫	拉堡村村民	曲么歪聪	1
31	2年度	2010年12月11日							11
32	3年度	2011年4月28日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		19
33	3年度	2011年5月3日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		15

34	3年度	2011年5月19日	宁南县拉堡村	种猪引进前培训会	宁南县畜牧局	罗方宪	拉堡村村民	曲么留日、伙补三也、田友且、赵俄初、唐友初、杨洪贵、赵使聪、蔡贵发、毛欧且、陈吉黑、黄伍子、伙补欧虫	12
35	3年度	2011年05月25日	美姑县洛觉村	美姑山羊日常饲养管理培训	美姑县畜牧局	吉吉尔勒	洛觉村村民	沈尔子古、沈尔拉古、沈尔曲前、沈尔黑石、曲比拉石、沈尔阿机、沈尔以古、沈尔阿子、曲比举者、沈尔以洛、俄其拉石、俄其作前、沈尔克古、曲比子举、沈尔拉批、沈尔阿培、沈尔布都门、曲比尔布、俄其拉林、俄木石铁、曲比尔普、曲比木日、俄木以古、俄木惹达、曲比拉石、曲比木曲、曲比克惹、曲比拉度、曲比拉主、俄其曲莫	37
36	3年度	2011年06月23日	宁南县拉堡村	参观学习科学养猪	俱乐养殖厂	苏远华	拉堡村村民	曲么留日、伙补三也、田友且、赵俄初、唐友初、杨洪贵、赵使聪、蔡贵发、毛欧且、陈吉黑、黄伍子、伙补欧虫	12
37	3年度	2011年6月27日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		26
38	3年度	2011年6月28日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		13
39	3年度	2011年08月14日	西昌市西溪乡蔬菜基地	蔬菜的科学栽培和联合销售	西昌益康果蔬协会	李王华	洛觉村组干部及村民 拉堡村组干部及村民	刘建华（合姑洛乡副乡长）、拾乙曲体、曲比牛牛、沈尔杨惹、阿作石布、俄其作格、沈尔阿子、曲比拉日、曲比拉史、俄比曲前、吉拿以服、张国约、吉吉石前、吉吉为前、吉吉曲依、杨正友（副乡长）、曲么五日、曲么拉曲、曲么你初、李云、李拉哩、唐友初、赵则初	30

40	3年度	2011年08月15日	西昌市川兴桉树基地 盐源县棉垭乡核桃基地	建材林大规模种植、核桃种植方法及日常管理	西昌川兴桉树基地 盐源县核桃协会	罗洪 胡聪林	洛觉村组干部及村民 拉堡村组干部及村民	刘建华（合姑洛乡副乡长）、拾乙曲体、曲比牛牛、沈尔杨惹、阿作石布、俄其作格、沈尔阿子、曲比拉日、曲比拉史、俄比曲前、吉拿以服、张国约、吉吉石前、吉吉为前、吉吉曲依、杨正友（副乡长）、曲么五日、曲么拉曲、曲么你初、李云、李拉嘿、唐友初、赵则初、赵使聪、蔡贵发、杨	30
41	3年度	2011年08月30日	美姑县洛觉村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		
42	3年度	2011年09月05日	宁南县拉堡村	定期隔月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		
43	3年度	2011年09月23日	宁南县倮格乡政府	嫁接核桃栽种技术培训	日方项目组　宁南县林业局	黄胜泽、刘顺云	拉堡村村组干部代表	曲么伍日、杨此嘿、唐友初、赵使聪、田左嘿	5
44	3年度	2011年10月06日	美姑县洛觉村	用材林造林技术指导	日方项目组 美姑县林业局	黄胜泽、海米鲁也	洛觉村村民		12
45	3年度	2011年10月10日	宁南县拉堡村	青花椒栽种技术培训	日方项目组　宁南县林业局	黄胜泽、刘顺云	拉堡村村组干部代表	曲么伍日、杨此嘿、唐友初、赵使聪、田左嘿	5
46	3年度	2011年11月10日	宁南县拉堡村	核桃育苗技术培训	日方项目组　宁南县林业局	黄胜泽、刘顺云	拉堡村核桃育苗示范户	曲么里聪、唐友初、蔡友国、鲁友日	4
47	3年度	2011年11月16日	美姑县洛觉村	[redacted]	项目组	项目组专家协调员	乡村干部村民		27
48	3年度	2011年11月19日	宁南县拉堡村	[redacted]	项目组	项目组专家协调员	乡村干部村民		39

51	4年度	2012年02月10日	宁南县拉堡村	核桃嫁接技术培训	盐源县核桃协会 宁南县科技局 宁南县林业局	刘德顺、刘顺云	倮格乡村民	蒋文振、蒋涛、吴贤友、曹选、杨正友、蔡吉聪、唐你发、蔡小龙、赵子发、蔡晓华、胡发兴、刘伍国、刘德顺、韩沙也、韩优森、安子农、安色日、安照发、杨子曲、卢小发、布明亮、布明荣、胡文学、王明亮、尼日子发、田友拉、蔡科日、马子呷、且沙色发、阿升色吉、任宋华、夏德顺、乃	38
52	4年度	2012年3月30日	美姑县洛觉村	定期隔周研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部	海来鲁也、阿尔阿布、俄木史里、曲比以能、俄比曲前、曲比拉日、曲比牛牛、吉拉以福、曲比俄洛、曲比格哈	10
53	4年度	2012年4月1日	宁南县拉堡村	定期隔周研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部	曲么你初、赵子发、蔡贵发、曲么医牛、杨子作、窝底以刚、曲么伍勒、赵伍且、蔡吉聪、杨正友、余河、刘顺云、罗方宪、全玉忠、吴	16
54	4年度	2012年4月17日	美姑县县城	参与式开发项目培训会	北京社科院	徐鲜梅	州、县各部门、乡村代表	张立、瓦西石明、吴开军、吉拉维石、邓勇、曲比牛牛、沈尔扬日、且沙莫阿依、杨英、杨久明、张君文、吉木石者、吉觉尔者、吉机伍各、马海拉吉、吉克布吉、张国珍、甲斯马麻、海来鲁也、张军、索铁阿洛、陈晓辉、吴利文、杨宏地、杨开文	28

55	4年度	2012年4月20日	宁南县县城	参与式开发项目培训会	北京社科院	徐鲜梅	州、县各部门、乡村代表	胡映、蒋文振、张明华、陈衣松、谢宝超、秦伟、杨首勇、罗方宪、刘钦春、郑旭、李芳、李应帆、奚业、张春华、蔡贵发、曲么伍日、何龙洲、杨辉光、蔡吉聪、吴俊、张显举、王宁远、羊建旗、杨友慧、曹选、肖克智、袁勇、赵友福、李涛、刘顺云、蒲红志、吴贤友、	37
56	4年度	2012年05月15日	美姑县洛觉村	改良炉灶制作研修会	日方项目组	须藤 晃 前年度参加农户	洛觉村村民	沈尔惹克、沈尔哈古、曲比木洛、曲比衣莫、沈尔以洛、吉拉子伍、曲比拉都、俄其拉里、曲比尔体、曲比木前、阿都曲体、曲比石前、曲比拉日、曲比拉曲、曲比布惹、曲比衣坡、井子阿体、阿西呷尔、曲比叉所、贾巴石布、曲比达莫、阿作拉莫、曲比拉格、曲比里格、	28
57	4年度	2012年5月30日	美姑县洛觉村	定期[redacted]月研讨会	项目组	项目组专家协调员	州县科技局洛觉村村民	陈晓辉、吴利文、胡光亚、曲比牛牛、沈尔扬惹、吉吉为且、曲比拉惹、俄木石布、俄其作给、吉拿以服、曲比洛各惹、俄木史里、曲比石布、吉吉马曲、曲比子体、张国志、乌尔书	20
58	4年度	2012年6月8日	宁南县拉堡村	定期[redacted]月研讨会	项目组	项目组专家协调员	州县科技局拉堡村村民	胡光亚、罗方宪、曹选、余河、蔡吉聪、蔡贵发、俄底尔日、曲么伍日、窝底以刚、曲么史云、杨子作、赵伍且	12

59	4年度	2012年7月17日	美姑县洛觉村	牧草栽培管理培训会	州畜科所	王同军	洛觉村村民	俄其尔布、曲比拉给、曲比达果、曲比拉日、俄比曲前、俄比马史、吉拿以服、张国约、曲比以能、曲比拉曲、曲比为机、曲比打各、俄其作给、沈尔以古、沈尔拉批、吉吉为机、吉吉为且、吉吉格布、吉吉为曲、俄其古林、曲比牛牛、曲比木曲、曲比拉日、吉吉石古、约其达果、曲比阿古、曲比拉惹、曲比尔洛、曲	32
60	4年度	2012年7月31日	美姑县洛觉村	定期隔周研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		8
61	4年度	2012年8月2日	宁南县拉堡村	定期隔周研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部	刘顺云、蔡吉聪、曲么伍日、杨子作、唐友聪、赵子发	6
62	4年度	2012年9月21日	美姑县洛觉村	定期隔周研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部	陈晓辉、俄木史里、吉克吉里、吉吉沙果、俄比曲前、吉吉为且	6
63	4年度	2012年9月26日	宁南县拉堡村	定期隔周研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部	刘顺云、蔡吉聪、曲么伍日、杨子作、唐友聪、赵子发	6

64	4年度	2012年10月12日-14日	美姑县洛觉村6、7组	水管安装技术培训会	美姑县水务局	石一格夫沙马瓦各	洛觉村村民	吉吉曲以、吉吉尔服、吉吉尔哥、吉吉乃且、吉吉克惹、吉吉曲体、吉吉石达、吉吉麻麻、吉吉为机、吉吉木石、吉吉以洛、吉吉木惹、吉吉解放、吉吉依布、吉吉阿且、吉吉衣古、吉吉依服、曲比阿尔、曲比阿服、曲比尔服、吉吉木洛、吉吉木达、曲比勒石、吉吉古作、吉吉解放、阿作尔格、吉后伟曲、吉吉医生、吉吉节布、吉吉木布、吉吉拉夫、吉吉布哈、曲比依洛、吉吉拉机、吉吉石局、吉后门勒、	45
65	4年度	2012年10月15日-28日	美姑县洛觉村6、7组	水池修建技术培训会	美姑县水务局	石一格夫沙马瓦各	洛觉村村民	吉吉曲以、吉吉尔服、吉吉尔哥、吉吉乃且、吉吉克惹、吉吉曲体、吉吉石达、吉吉麻麻、吉吉为机、吉吉木石、吉吉以洛、吉吉木惹、吉吉解放、吉吉依布、吉吉阿且、吉吉衣古、吉吉依服、曲比阿尔、曲比阿服、曲比尔服、吉吉木洛、吉吉木达、曲比勒石、吉吉古作、吉吉解放、阿作尔格、吉后伟曲、吉吉医生、吉吉节布、吉吉木布、吉吉拉夫、吉吉布哈、曲比依洛、吉吉拉机、吉吉石局、吉后门勒、俄木石里、吉吉石古、吉后伟古、吉吉达果、阿作会达、吉吉石伍	45

66	4年度	2012年10月16日	宁南县拉堡村	母猪饲养管理培训会	宁南县畜牧局	罗方宪 周朝梅	洛觉村村民 村组干部	杨武年、曲么伍鬼、曲么子日、曲么欧拉、曲么牛日、曲么伍日、陈杰、赵子发、安子也、安小尔、曲么史云、安兴友、赵聪哈、赵鲁黑、陈拉作、赵依聪、蔡永贵、杨友日、鲁友日、杨子作、毛鲁作、蔡宝发、田拉聪、田子哈、哈马依发、唐友初	31
67	4年度	2012年10月30日	美姑县合姑洛乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家 协调员	乡村干部 村民	拾乙石立、俄其友其、拾乙克切、拾乙馬曲、瓦石呷工、吉吉相也、阿西偉体、吉吉達体、石衣達尔、吉吉衣右、吉拿弟弟、達則為石、吉克勒莫、曲比拉日、達則拉組、吉吉果果、吉吉加加、勒則曲体、洛哈説布、俄其拉也、阿作拉培、比子阿夫、俄木石青、俄其拉力、曲比黑答、拾乙曲鉄、張国珍、吉色伍呷、吉莫尔莽、吳加勇、吉吉	35
68	4年度	2012年10月30日	宁南县倮格乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家 协调员	乡村干部 村民	蔡吉聪、俄底尔日、蔡鲁発、華偉、李聪嘿、蔡貴発、趙子発、曲么伍日、蔡保発、曲么医発、田拉曲、窩底以則、吉尔丁日、唐友初、蔡依発、陳子日、韓德森、王志発、布明雲、韓長手、肖也発、馬拉	22
69	4年度	2012年11月10日-13日	美姑县洛觉村3组	水管安装及水池修建技术培训会	美姑县水务局	石一格夫 古池张哥	洛觉村村民	沈尔克日、沈尔衣服、俄其曲莫、阿都曲体、俄比马里、阿都弟弟、俄木石都、俄木石达、俄木石布、俄比曲呷、俄比马石、俄比马子、俄比呷底、俄比曲前、俄其尔布、吉吉阿米、	17

70	4年度	2012年12月3日	美姑县洛觉村	[redacted]	项目组	项目组专家协调员	乡村干部村民	吉吉阿且、曲比尔天、吉记以洛、曲比尔石、吉吉木达、阿作尔格、俄木史里、吉吉部哈、曲比木洛、曲比拉日、沈尔勒石、俄其作格、曲比拉伙、张国志、吉拉以福、俄比曲前、俄其尔布、贾巴夫一、吉吉石支、俄比马子、洛	22
71	4年度	2012年12月6日	宁南县拉堡村	[redacted]	项目组	项目组专家协调员	乡村干部村民	赵子发、赵伍且、蔡长毛、曲么子黑、安小东、赵子发、乃堡参日、吉尔初哈、曲么史云、杨友日、赵鲁黑、曲么医牛、唐以呷、伙补三也、曲么子日、苏雨沙、周大洪、赵拉日、肖你发、毛鲁宗、陈子呷、俄地依呷、吉日吕曲	20
72	4年度	2012年12月10日—12日	攀枝花市米易县	温室大棚栽培、核桃种植、养猪等技术参观学习	日方项目组	黄胜泽	保格乡拉堡村	俄低尔日、陈静、赵则初、俄杂、唐色也、唐友初、曲么子也、赵子发、赵依初、阿鲁子曲、唐色也、石强、蔡贵发、阿鲁友日、蔡友贵、伍留吉、陈文、安此呷、赵子初	19
73	5年度	2013年04月23日	美姑县佐戈依达乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		28
74	5年度	2013年04月24日	美姑县牛牛坝乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		27
75	5年度	2013年04月25日	美姑县典补乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		30
76	5年度	2013年04月26日	美姑县巴普镇	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		20
77	5年度	2013年05月01日	美姑县洛觉村	定期月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		16

78	5年度	2013年05月06日	宁南县拉堡村	定期隔月例村会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		12
79	5年度	2013年05月08日	宁南县西瑶乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		29
80	5年度	2013年05月09日	宁南县六铁乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		28
81	5年度	2013年05月11日	宁南县杉树乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		31
82	5年度	2013年05月12日	宁南县稻谷乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		30
83	5年度	2013年05月13日	宁南县海子乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		42
84	5年度	2013年06月04日	宁南县幸福乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		39
85	5年度	2013年06月05日	宁南县新村乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		36
86	5年度	2013年06月06日	宁南县景星乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		30
87	5年度	2013年06月17日	美姑县俄曲古乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		32
88	5年度	2013年06月18日	美姑县龙门乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		29
89	5年度	2013年06月19日	美姑县觉洛乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		26
90	5年度	2013年06月21日	美姑县农作乡	示范项目介绍会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		23
91	5年度	2013年06月20日	美姑县洛觉村	定期隔月例村会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		9

92	5年度	2013年06月24日	宁南县拉堡村	定期例月研讨会	项目组	项目组专家协调员	乡村组干部		11

Project Design Matrix (PDM：日本語版)

2013年9月22日

プロジェクト名： 中華人民共和国涼山州金沙江流域生態環境保全総合開発モデルプロジェクト
協力期間：2009年6月～2014年3月（5年間）
対象地域：四川省涼山州にある5村（①寧南県保格卿拉堡村、②美姑県合姑洛郷洛覚村、③会東県大崇卿半山村、④布拖県地洛卿地洛村、⑤金陽県馬依足卿馬依足村）
ターゲットグループ：涼山州、対象県及び郷鎮の行政スタッフ・農業普及員、並びに対象村の村民

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
上位目標 1. 涼山州金沙江流域の土水流失の多い丘陵地帯で生態環境が維持・改善される。	1-1. 事業モデルが涼山州金沙江流域に普及される（普及された県や村の数とその実践内容および生態環境の維持・改善状況）:90村	- 統計資料・データ - インタビュー調査	
プロジェクト目標 1. プロジェクト活動対象2村における実証を通じて、住民参加型手法による生態環境の保全と、農業生産性の向上を備えた農業農村開発（栽培技術の向上、集約作物の導入等）にかかる、持続可能な発展のための事業モデルを形成するとともに、活動対象2県内において事業モデルが紹介される。	1-1. プロジェクトのパイロット実証事業に参加した2県（2村）における住民のうち彼らの生産・生活条件及び対象地域の生態環境が改善したと認識している住民の比率：70% 1-2. 事業モデルを拡大、継続するための予算が関係する行政機関に確保され、必要な連携が行政機関間で図られる 1-3. 活動対象県内（2県）で事業モデルが紹介・普及された村の数とその実践内容：40村	- 対象地域におけるベースライン調査報告書 - プロジェクト終了時評価報告書 - インタビュー調査	- 深刻な自然災害が発生しない - 退耕環林政策が推進される
成果 1. 協力対象県（5県（5村））の関係者（州、県、郷鎮及び村レベル機関行政スタッフ及び農民）が参加型で農村開発を行う能力が向上する。	1-1. 定例会議の開催（実施回数32回以上、参加人数500人以上）と決定事項の内容 1-2. 研修（実施回数40回以上、参加人数700人以上）及び内容	- プロジェクトにより作成された資料、データ、及び報告書 - 定例会議議事録	- 中国側C/P機関に本質的な変化がない - 州及び県政府の事業予算が確保される
2. 生態環境と調和した農業の持続性向上と農民生活の改善を図る事業モデルが確立する。	2-1. 実施された資源調査（数、内容） 2-2. 策定された農村振興に係る活動計画（数、内容） 2-3. パイロット活動の成果（活動項目数、参加者数） 2-4. 実施されたモニタリング及び評価の内容	- プロジェクトにより作成された資料、データ、及び報告書 - パイロット活動報告書	
3. 協力事業対象県内（5県）へ事業モデル紹介・普及する仕組を構築する。	3-1. 作成された普及計画の内容 3-2. 作成されたマニュアル及び教材の数、内容、その活用状況 3-3. 研修等（実施回数20回以上、参加人数500人以上）及び内容	- プロジェクトにより作成された資料、データ、及び報告書 - 事業モデル普及計画書 - 研修マニュアル及び教材	
活動 1-1. 関係機関による責任体制を明確化し、事業実施のための連携、調整をおこなう 1-2. プロジェクトの関係者の能力及び知識向上のための住民参加型農村開発にかかる研修を実施する 2-1. 農村の資源調査（土地利用、自然、社会経済、市場に関する情報）を行う 2-2. 住民参加型手法を活用し、生態環境保全に配慮した農村振興に係る活動計画（流域土地利用・保全計画／農業振興計画／農村生活環境改善計画）を策定する 2-3. 活動計画に基づき、モデル農家を選定する 2-4. モデル農家においてパイロット活動（①生態環境保全に配慮した農業生産性向上に係る活動、②生態環境保全に配慮した農民の生活改善に係る運動）を実施する 2-5. パイロット活動のモニタリングと評価を行い、結果を取りまとめて事業モデルとして確立する 3-1. 事業モデルの普及計画を作成する 3-2. 事業モデル普及のためのマニュアル及び教材を作成する 3-3. 事業モデルの紹介・普及を目的とした研修等を開催する（行政スタッフ、技術普及員、農民リーダー対象）	投入 日本側 1. 専門家派遣 -.総括／農村開発、生活改善／生計向上、農業技術 - 生活改善／生計向上 - 農業技術／生産性向上 - 土地利用計画／土壌保全 - 畜産振興 - 植林／造成／草地管理 - 農村社会経済／事業評価 - 業務調整／プロジェクト管理 2. 現地国内研修及び本邦研修 3. 必要機材 -車輌 -事務設備 -その他必要と判断される機材	中国側 1. プロジェクトカウンターパート 州、県、郷鎮／村レベルにおいて必要人数の配 2. プロジェクト合同調整委員会の設置 3. 技術支援機関の設置 4. 設備／施設 -専門家執務室 -郷鎮／村レベルでの活動に係る活動場所 5. プロジェクト運営経費及び活動経費 -研修経費の一部 -カウンターパートに係る旅費 - 村レベルパイロット活動の実施に必要な経費の一部 - その他パイロット活動の実施に必要な経費の一部 6. 活用できる現地中国人専門家	- プロジェクトに対して対象地域の郷鎮並びに農民の協力が確保される - カウンターパートの大きな離職、変動がない 前提条件 - 涼山州政府、対象県及び郷鎮政府関係者が本プロジェクトを十分理解し全面的な協力を行う - 中国政府の貧困対策及び流域管理保全に係る政策に変更がない